

日野市
子どもの生活実態調査結果報告書
【概要版】

令和8年3月

日 野 市

I 調査の概要

1 調査の目的

「日野市子どもの貧困対策に関する基本方針」の策定を進めるにあたり、子育て家庭や子ども本人の生活状況、ならびに市民の施策に対するご意見・ご要望を把握し、そのニーズや意向を計画に反映させるため、アンケート調査を実施いたしました。

2 実施概要

調査票	調査対象	調査方法	調査実施時期	配布数	回収数	回収率
小学生本人	市内在住(市外学校に通う子どもも含む)の小学5年生	学校配布・郵送配布／学校回収・郵送回収(WEB回答可)	令和7年9月22日～令和7年10月24日	1,624通	801通	49.3%
中学生本人	市内在住(市外学校に通う子どもも含む)の中学2年生	学校配布／学校回収	令和7年9月22日～令和7年10月24日	1,628通	665通	40.8%
16-17歳本人	市内在住(市外学校に通う子どもも含む)の16-17歳の子ども本人	郵送配布	令和7年9月22日～令和7年10月24日	1,646通	347通	21.1%
小学生保護者	市内在住(市外学校に通う子どもも含む)の小学5年生の保護者	学校配布・郵送配布／学校回収・郵送回収(WEB回答可)	令和7年9月22日～令和7年10月24日	1,624通	853通	52.5%
中学生保護者	市内在住(市外学校に通う子どもも含む)の中学2年生の保護者	学校配布／学校回収	令和7年9月22日～令和7年10月24日	1,628通	728通	44.7%
16-17歳保護者	市内在住(市外学校に通う子どもも含む)の16-17歳の子どもの保護者	郵送回収(WEB回答可)	令和7年9月22日～令和7年10月24日	1,646通	393通	23.9%

3 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。
- ・クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

4 生活困難について

本報告書では、生活困難を抱える子どもの状況を3つの要素で分類します。

- ① 低所得
- ② 家計の逼迫（ひっぱく）
- ③ 子どもの体験や所有物の欠如

「①低所得」は、先進諸国の貧困の測定に最も一般的に用いられ、厚生労働省も用いている指標です。しかし、本調査は、記入式の質問調査であることから、把握できる世帯所得の精緻度が限られています。そこで、所得データを補充するために、「②家計の逼迫」「③子どもの体験や所有物の欠如」に用いられている物質的はく奪指標を用いています。

物質的はく奪指標は、所得データによる貧困率と一緒に用いることで、貧困の測定の精緻化が可能であることが、欧州連合などを始めとする国内外の研究により判明しています。

以下にそれぞれの指標の詳細な定義を示します。

① 低所得

「低所得」は、世帯所得（勤労収入、事業収入等＋社会保障給付）を、世帯人数の平方根で割り算した値（＝等価世帯所得）が、厚生労働省「令和5年国民生活基礎調査」から算出される基準※未満の世帯と定義します。

なお、低所得世帯の割合は、世帯所得の把握の方法や、可処分所得ではなく当初所得を用いている点などの違いがあるため、厚生労働省「令和5年国民生活基礎調査」にて公表されている「子どもの貧困率」（11.5％）とは比較できません。

※基準…厚生労働省「国民生活基礎調査」（令和5年）の世帯所得の中央値405万円を、平均世帯人数2.23人の平方根で除した値の50％である、135.6万円

② 家計の逼迫（ひっぱく）

「家計の逼迫（ひっぱく）」は、経済的な制約を子どもに課し、生活水準を低下させるだけでなく、親の心理的なゆとりや、心身的健康状態の悪化を通して子どもに悪影響をもたらす可能性があると言われてしています。

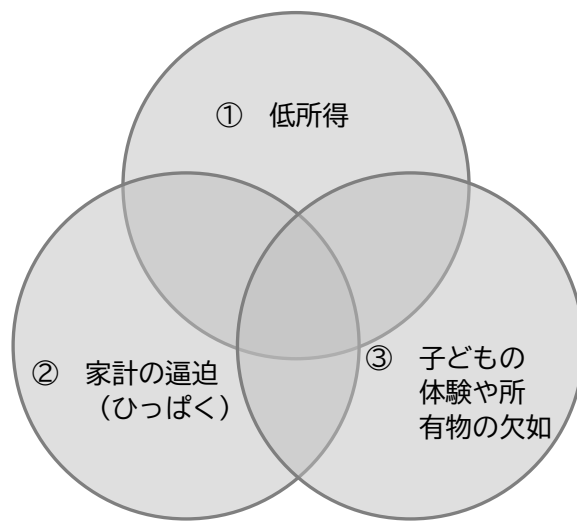
そこで、家計の逼迫を、家計の中で大きな比重を占め、これらの欠乏により基本的な生活水準を保つことが難しいと考えられる公共料金や食料・衣類の費用が捻出できない状況と定義します。

具体的には、保護者調査（問33・34）において過去1年間に経済的な理由で電気・ガス・水道等の料金の滞納があったか、また、過去1年間に「家族が必要とする食料が買えなかった経験」、「家族が必要とする衣類が買えなかった経験」があったかの5つの項目のうち1つ以上が該当する場合は「家計の逼迫」があると定義します。

③ 子どもの体験や所有物の欠如

子ども自身の体験や所有物の欠如といった生活困難を表し、具体的には、保護者調査（問 28・35・36）において、過去1年間「海水浴に行く」「博物館・科学館・美術館などに行く」「キャンプやバーベキューなどに行く」「スポーツ観戦や劇場、映画館などに行く」「遊園地やテーマパークに行く」「毎月お小遣いを渡す」「毎年新しい洋服・靴を買う」「習い事（音楽・スポーツ・習字など）に通わせる」「学習塾に通わせる」「お誕生日のお祝いをする」「1年に1回は家族旅行に行く」「クリスマスプレゼントや正月のお年玉をあげる」ことが経済的な理由でできない、または「子どもの年齢に合った本」「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」が経済的な理由のために世帯にないといった全15項目です。

これらの項目のうち3項目以上に該当している場合、「子どもの体験や所有物の欠如」の状態であると定義します。



生活困難層	困窮層+周辺層
困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
一般層	いずれの要素にも該当しない

なお、令和2年から始まった新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、過去1年間においては感染防止のためにこれらの活動・体験を行えなかった子どもがいますが、ここでは「経済的な理由」でこれらを欠如している場合のみを含めることにより、新型コロナウイルス感染症による影響を除いています。

【生活困難度の状況】

以下、本調査に回答した子ども本人における生活困難度の分布を記載します。なお、子ども本人の生活困難度は、その保護者の生活困難度と同一のものとしています（本調査は調査対象の世帯ごとにIDを割り振り、同一世帯の子ども本人と保護者の回答を紐づけて分析しています）。

※保護者が「① 低所得」「② 家計の逼迫（ひっぱく）」「③ 子どもの体験や所有物の欠如」を判定するための設問のいずれかに回答していない場合、あるいは、子どもの本人のみが回答し、その保護者が回答していない場合は、子ども本人の生活困難度が判定不能となります。本調査では、生活困難度が判定できなかった場合を「分類不能」として分類しています。

・小学5年生

【分類不能を含む】

区分	件数	割合 (%)
一般層	361	45.1
周辺層	44	5.5
困窮層	22	2.7
分類不能	374	46.7
合計	801	100.0

【分類不能を除く】

区分	件数	割合 (%)
一般層	361	84.5
周辺層	44	10.3
困窮層	22	5.2
合計	427	100.0

・中学2年生

【分類不能を含む】

区分	件数	割合 (%)
一般層	170	25.6
周辺層	37	5.6
困窮層	16	2.4
分類不能	442	66.5
合計	665	100.0

【分類不能を除く】

区分	件数	割合 (%)
一般層	170	76.2
周辺層	37	16.6
困窮層	16	7.2
合計	223	100.0

・16-17 歳

【分類不能を含む】

区分	件数	割合 (%)
一般層	128	36.9
周辺層	32	9.2
困窮層	17	4.9
分類不能	170	49.0
合計	347	100.0

【分類不能を除く】

区分	件数	割合 (%)
一般層	128	72.3
周辺層	32	18.1
困窮層	17	9.6
合計	177	100.0

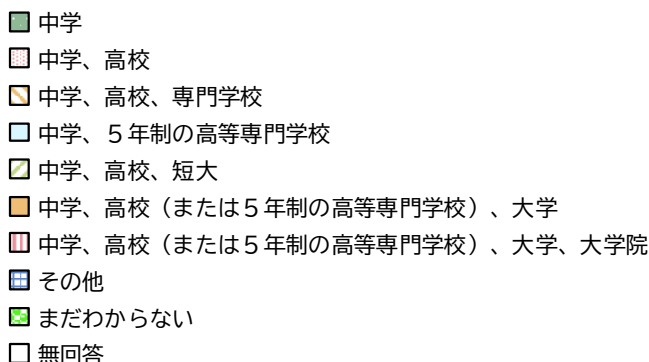
II 保護者調査結果の概要

1 お子さんの進学先

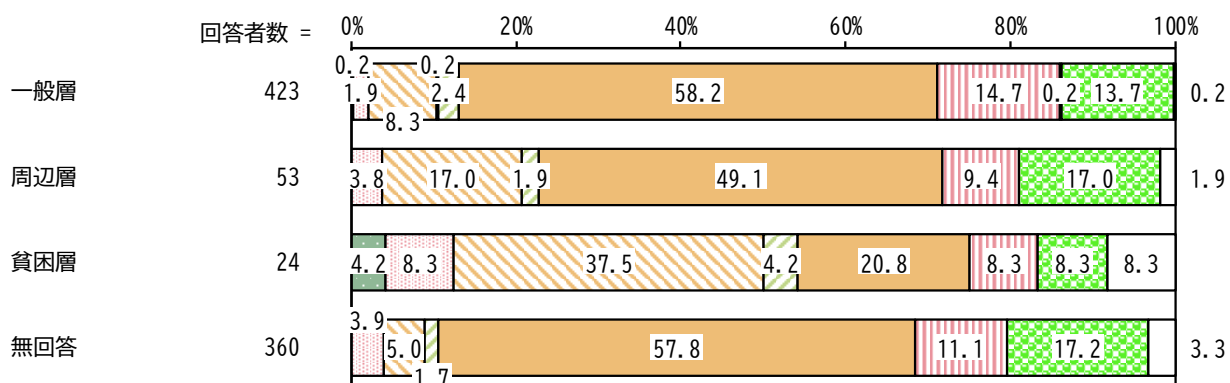
問 お子さんは将来、現実的に見てどの学校まで進学すると思いますか。
(あてはまるものひとつに○)

大学以上まで進学すると思う割合は、困窮層ほど低くなっています。就学に係る援助等を実施することにより、生活状況で進学の可能性が狭められないようにすることが重要です。

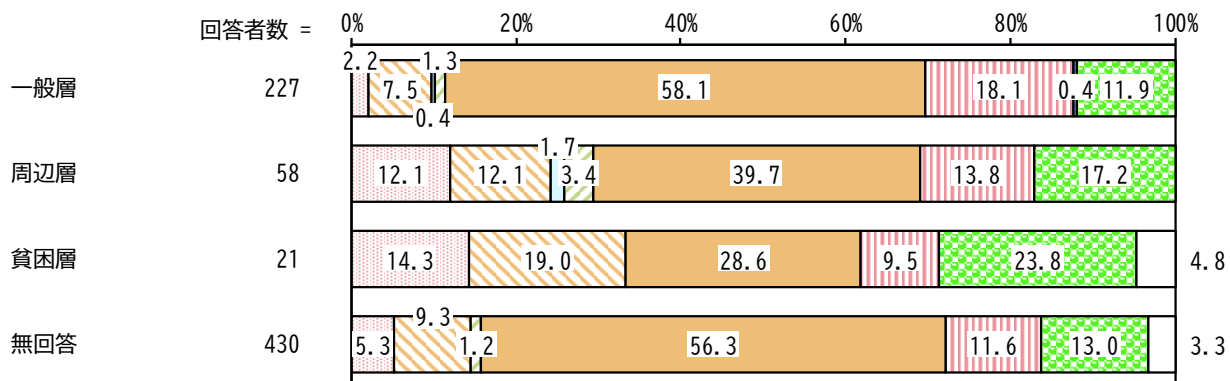
【生活困難度別】



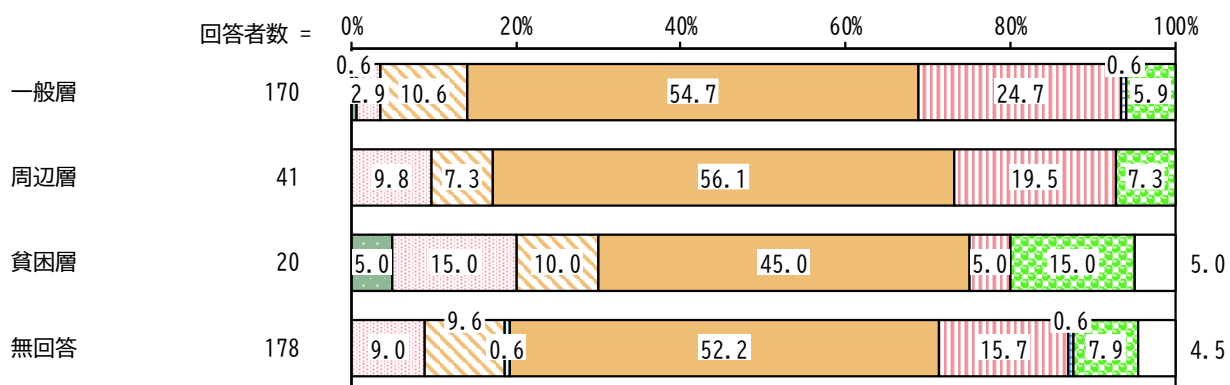
・小学生保護者



・中学生保護者



・16-17 歳保護者



2 歯科受診状況

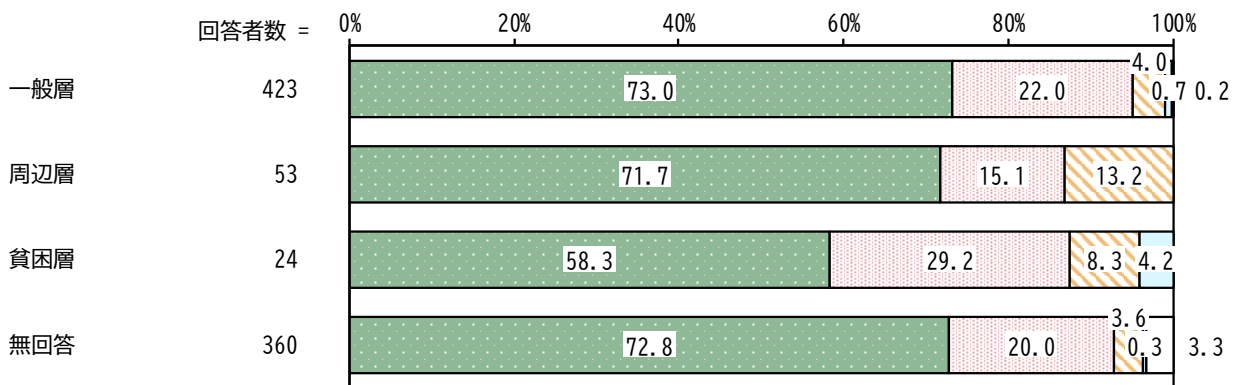
問 お子さんは、定期的に歯科医を受診していますか。(1つに○)

小学生保護者・16-17歳保護者において、困窮層ほど定期的に受診している割合が低くなっています。貧困が健康への悪影響を及ぼさないように注意する必要があります。

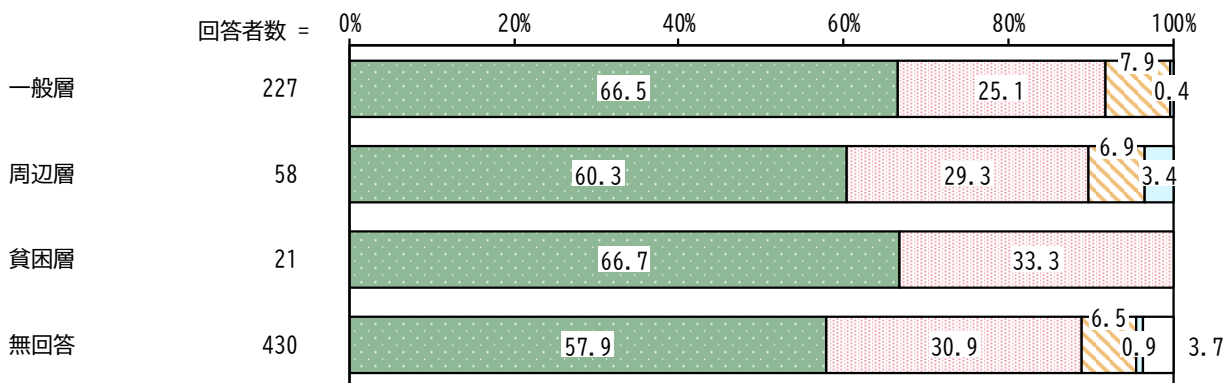
【生活困難度別】

定期的に受診している
 治療を要するときに受診している
 ほとんど受診していない
 その他
 無回答

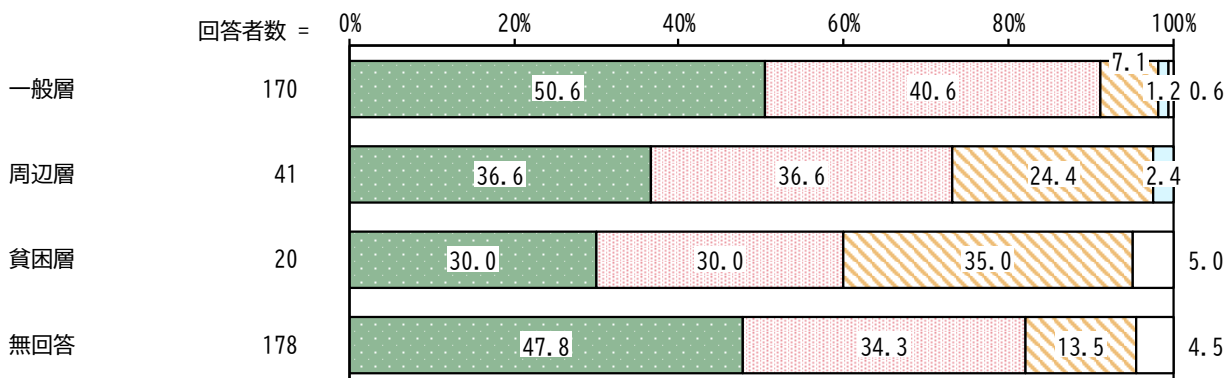
・小学生保護者



・中学生保護者



・16-17歳保護者



3 生活での安心感

問 次のA～Fの質問について、あなたは、ここ1か月の間にどのくらいの頻度で感じましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

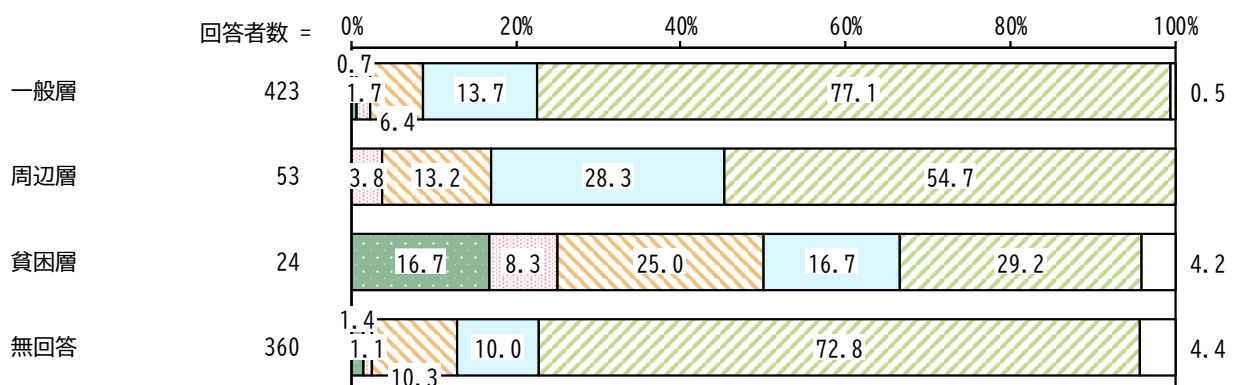
B 絶望的だと感じた

困窮層ほど、「いつも」「たいてい」の割合が高くなっています。生活状況に関わらず、安心して暮らせるよう適切に支援していくことが重要です。

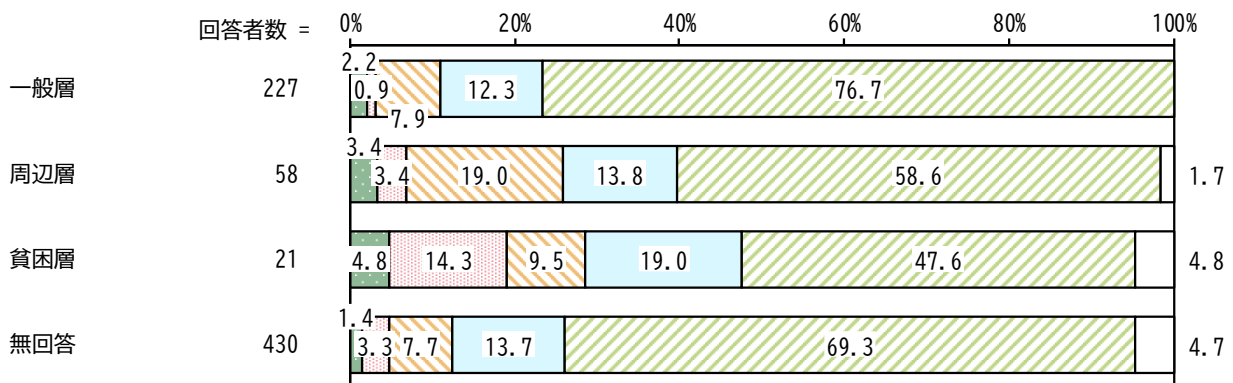
【生活困難度別】

■ いつも □ たいてい ■ ときどき □ 少しだけ ■ 全くない □ 無回答

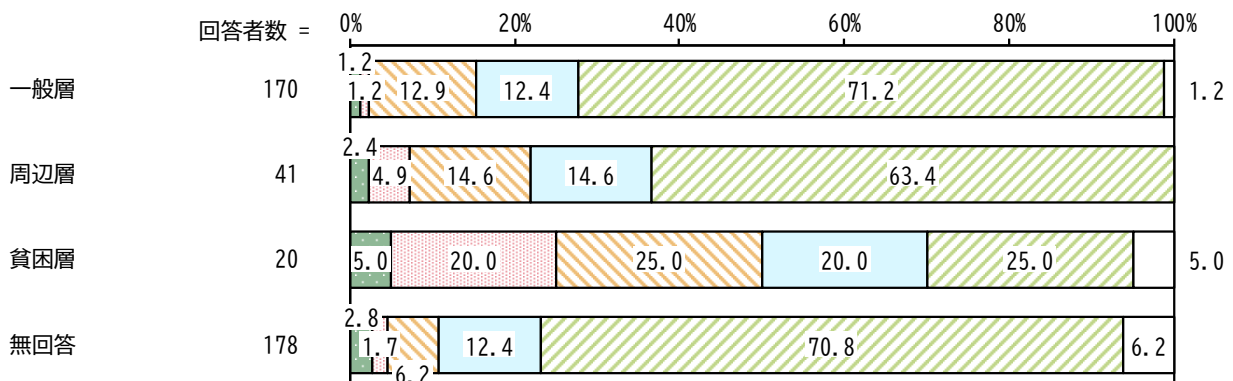
・小学生保護者



・中学生保護者



・16-17歳保護者



4 子どもと過ごす時間

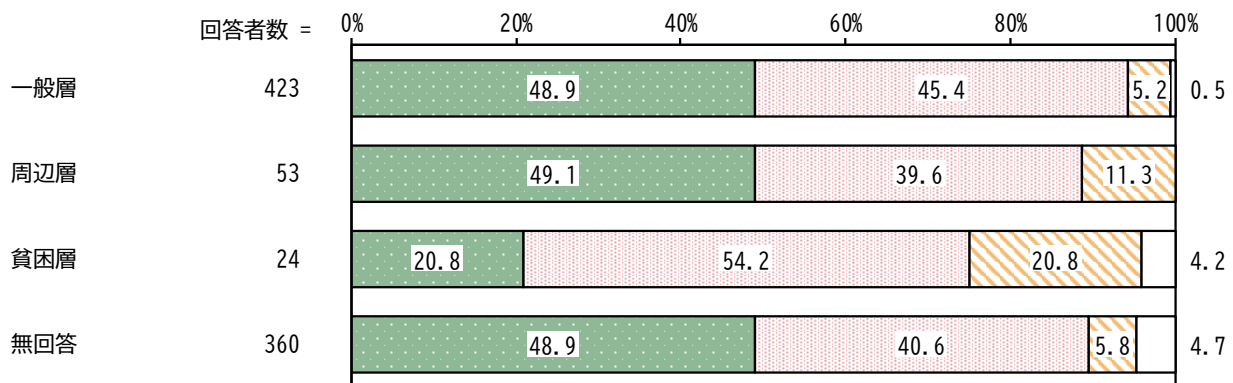
問 お子さんと一緒に過ごす時間がとれていますか。(1つに○)

子どもと過ごす時間をみると小学生保護者、16-17歳保護者で「十分にとれている」の割合が困窮層で低くなっており、学校以外で、地域における居場所づくりが必要です。世帯分類別にみると、16-17歳保護者で母親（ひとり親）の「十分にとれている」割合が低くなっています。

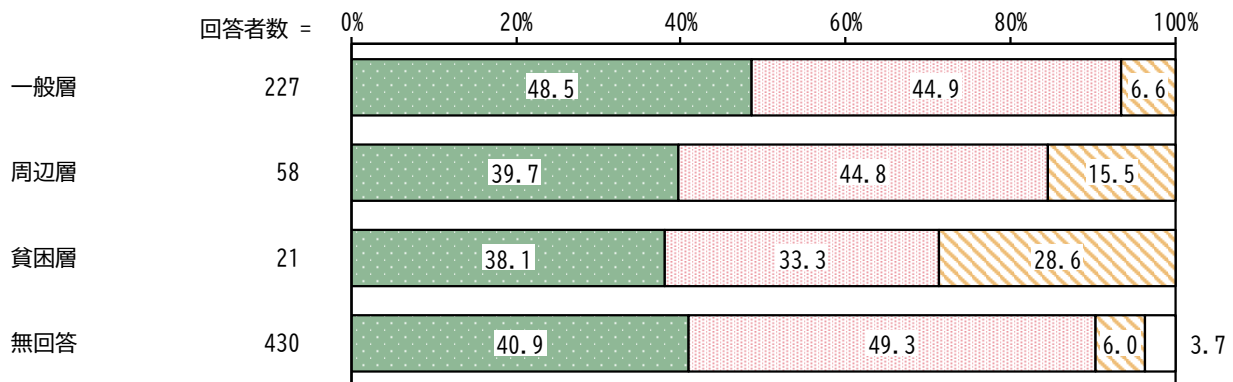
【生活困難度別】

■ 十分にとれている □ 十分ではないが、とれている ▨ あまりとれていない □ 無回答

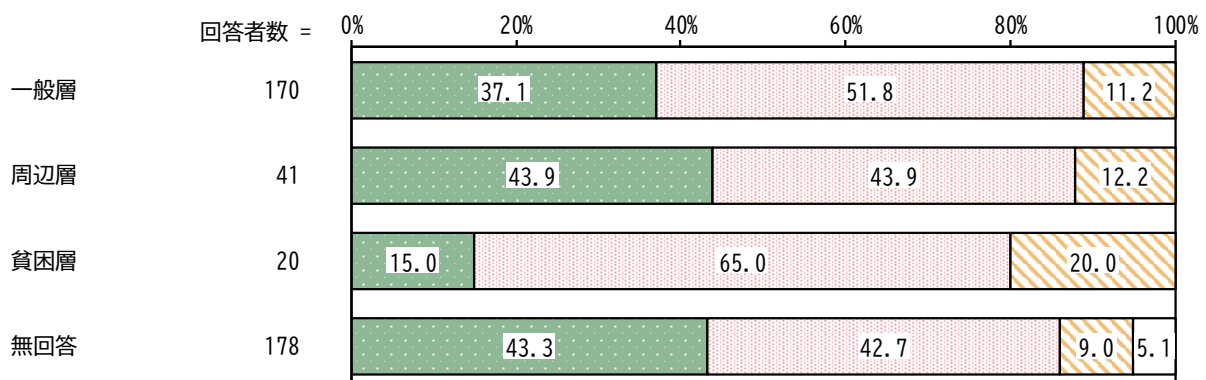
・小学生保護者



・中学生保護者



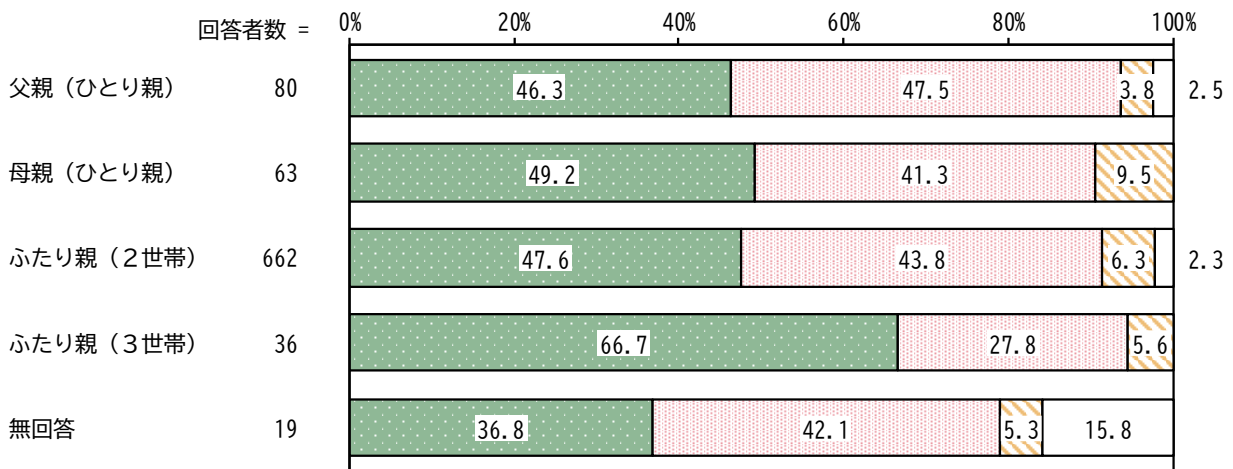
・16-17歳保護者



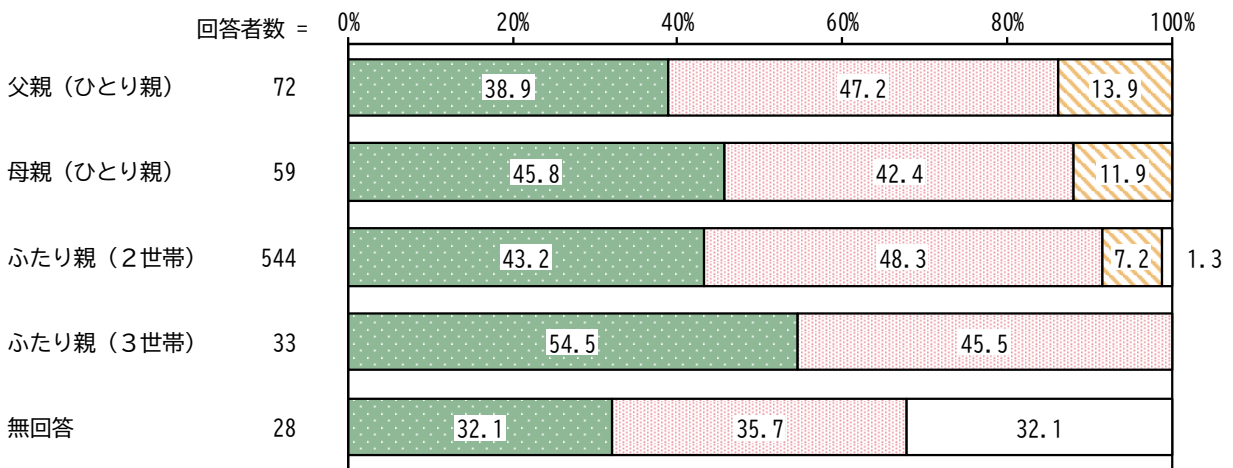
【世帯分類別】

■ 十分にとれている □ 十分ではないが、とれている ▨ あまりとれていない □ 無回答

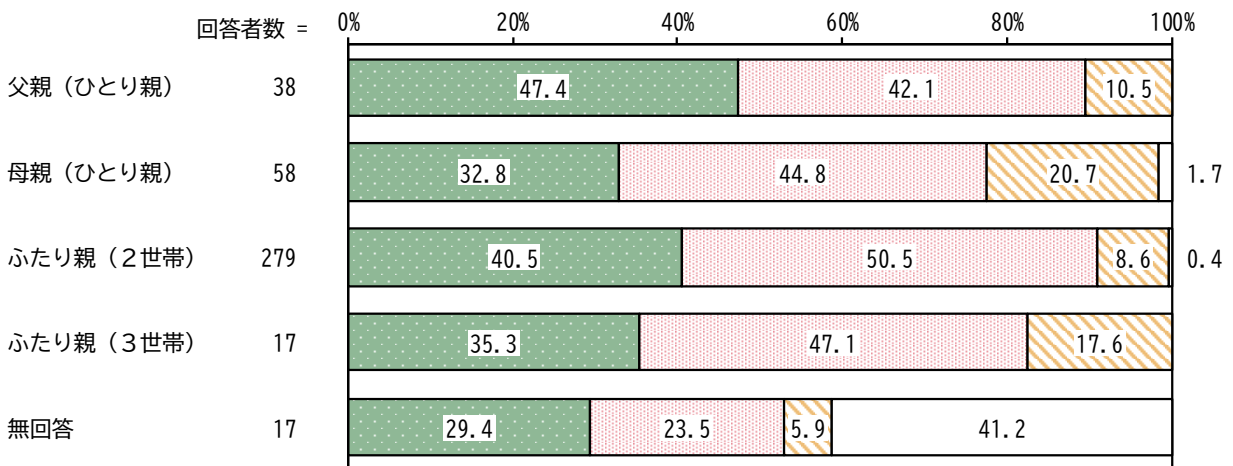
・小学生保護者



・中学生保護者



・16-17歳保護者



5 生活状況

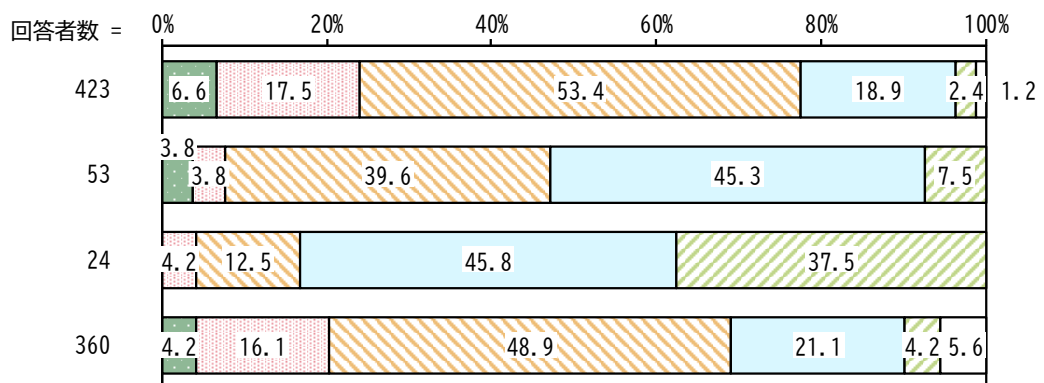
問 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(1つに○)

困窮層ほど、「やや苦しい」「大変苦しい」の割合が高くなっています。また、世帯分類別にみると、母親（ひとり親）で「やや苦しい」「大変苦しい」の割合が高くなっています。現状を踏まえ、適切な対象に支援を行って行くことが重要です。

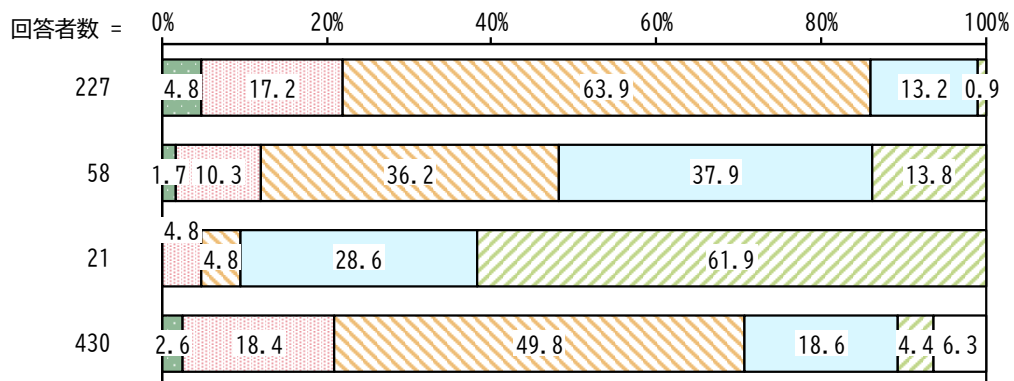
【生活困難度別】

■ 大変ゆとりがある □ ややゆとりがある ■ 普通 □ やや苦しい ■ 大変苦しい □ 無回答

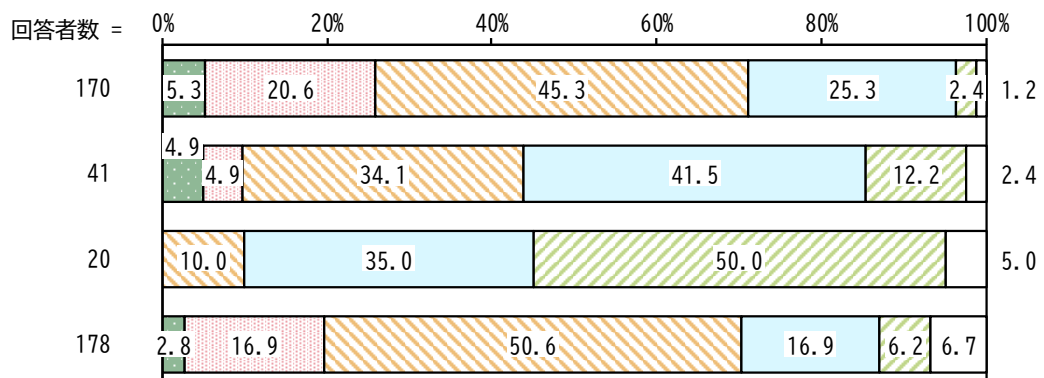
・小学生保護者



・中学生保護者



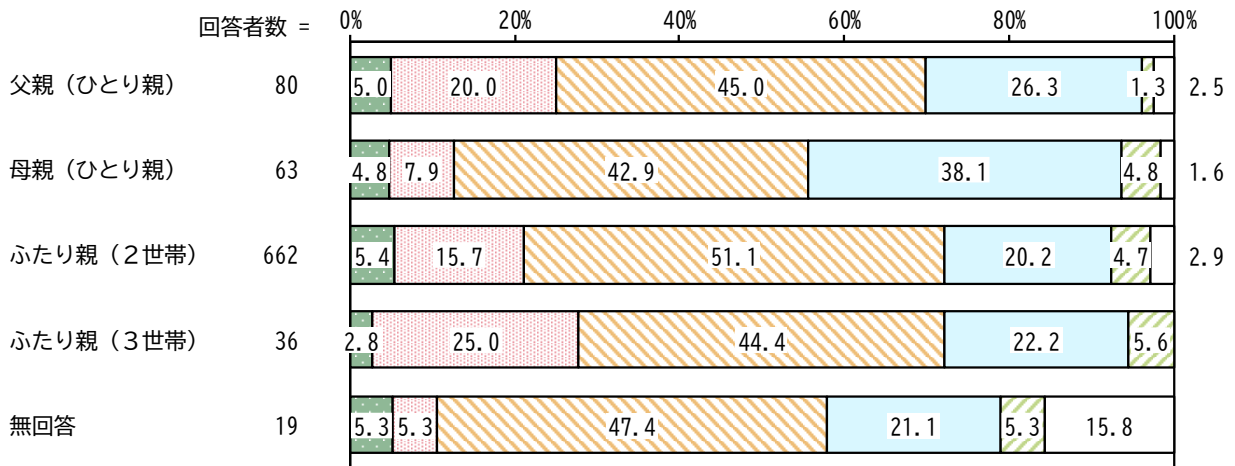
・16-17歳保護者



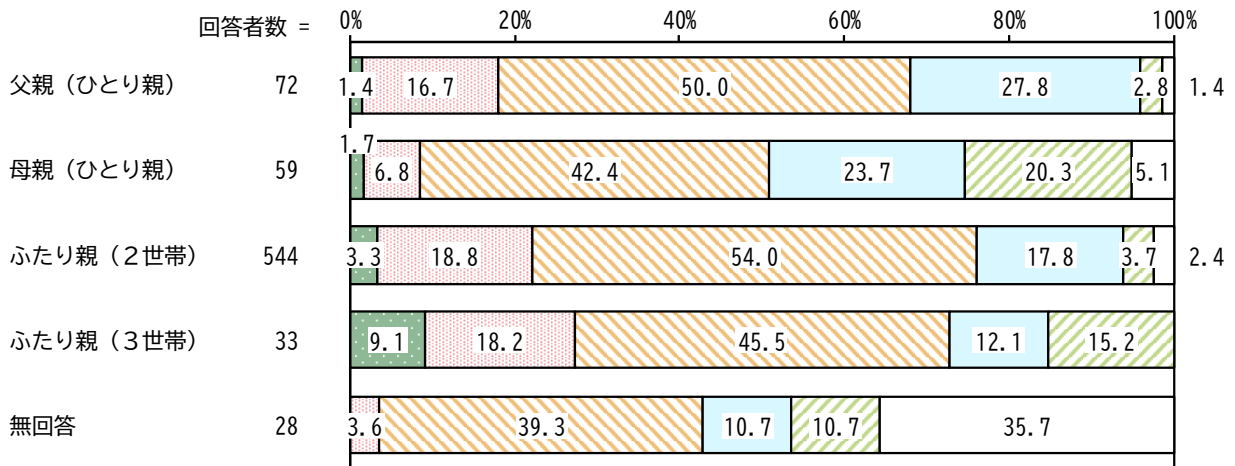
【世帯分類別】

■ 大変ゆとりがある □ ややゆとりがある ▨ 普通 □ やや苦しい ■ 大変苦しい □ 無回答

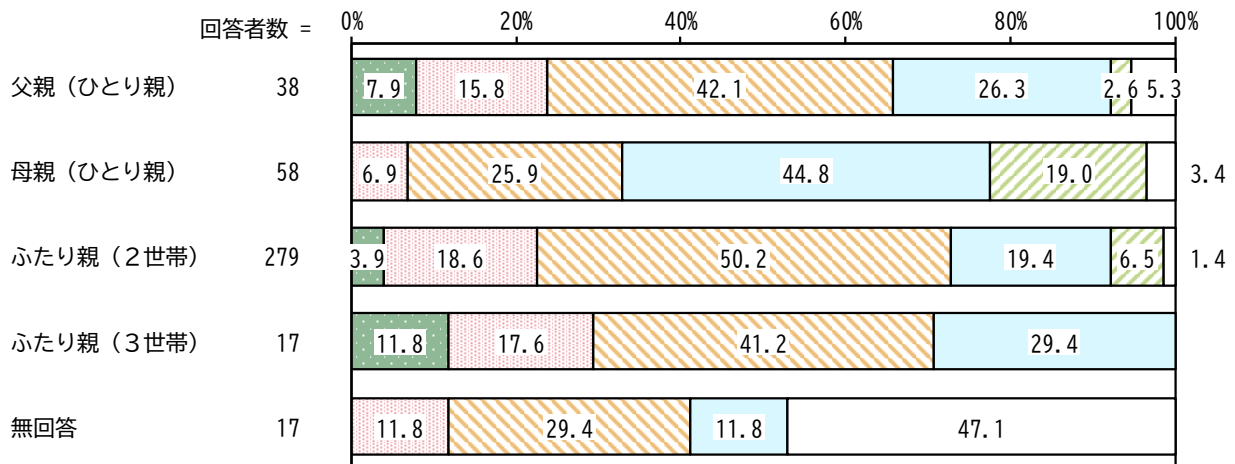
・小学生保護者



・中学生保護者



・16-17歳保護者



6 食料・衣服の購入

問 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、次のものを買えないことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

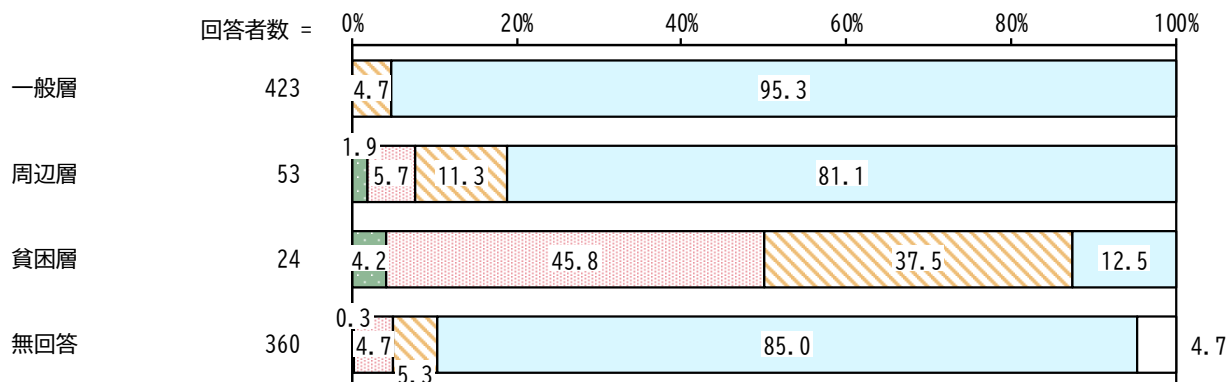
A 食料

困窮層ほど「よくあった」「ときどきあった」の割合が高くなっています。

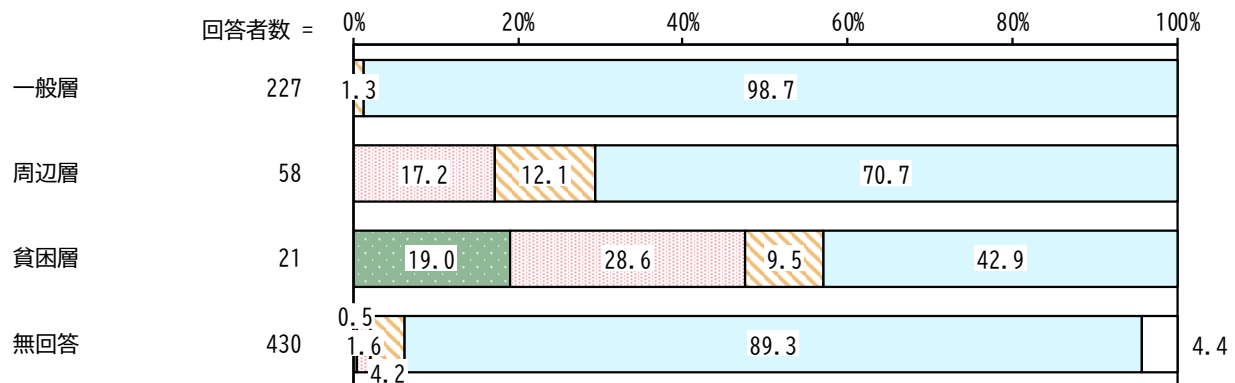
【生活困難度別】

■ よくあった □ ときどきあった ▨ まれにあった □ まったくなかった □ 無回答

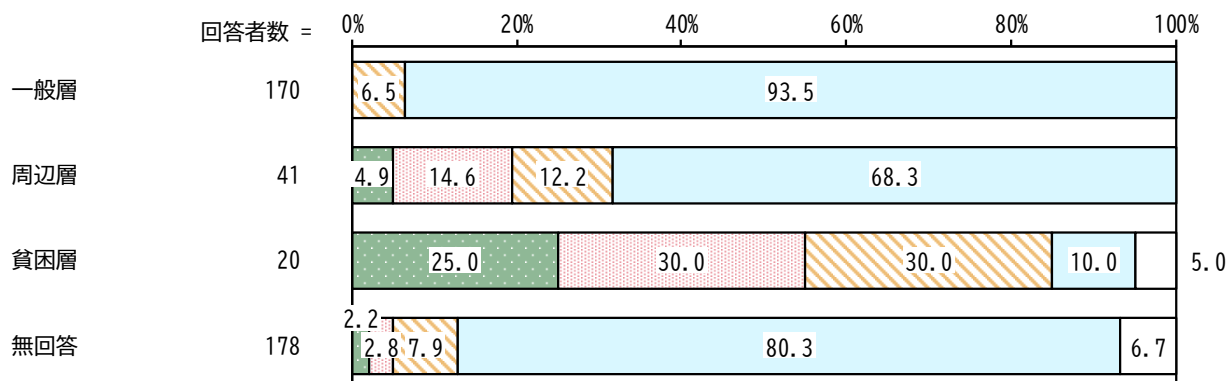
・小学生保護者



・中学生保護者



・16-17歳保護者



問 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、次のものを買えないことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

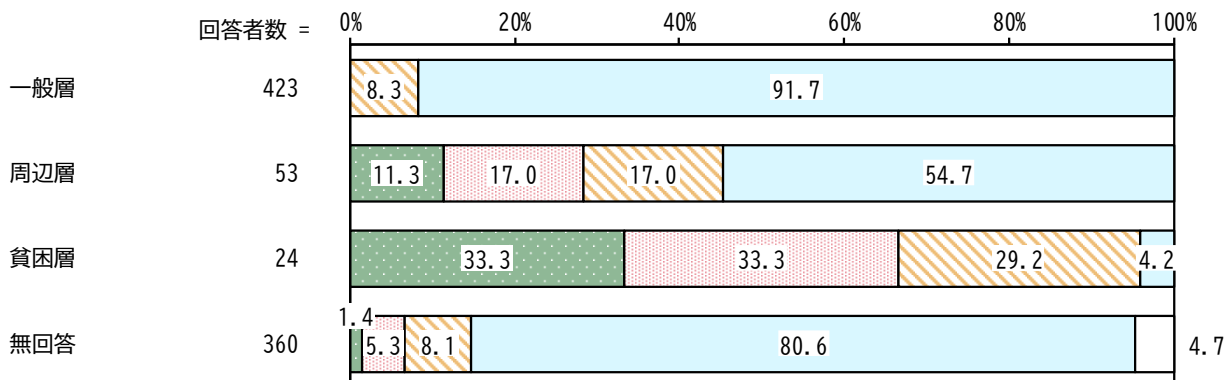
B 衣料

困窮層ほど「よくあった」「ときどきあった」の割合が高くなっています。

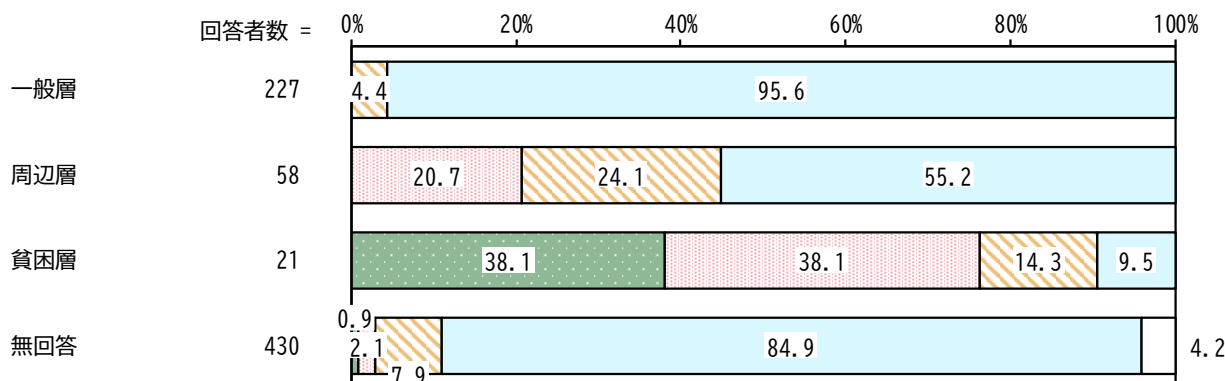
【生活困難度別】

■ よくあった □ ときどきあった ▨ まれにあった □ まったくなかった □ 無回答

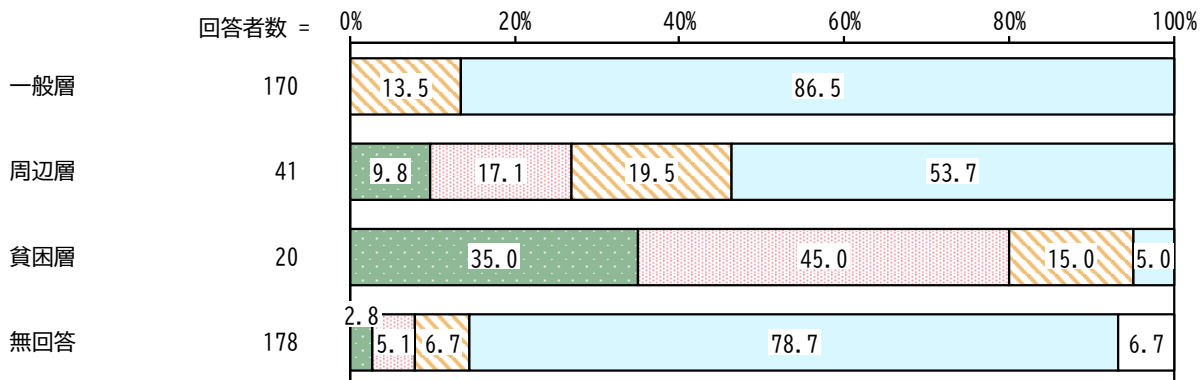
・小学生保護者



・中学生保護者



・16-17歳保護者



7 電気・ガス・水道料金の未払い

問 あなたのご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由で、以下のA～Gの料金について、支払えないことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

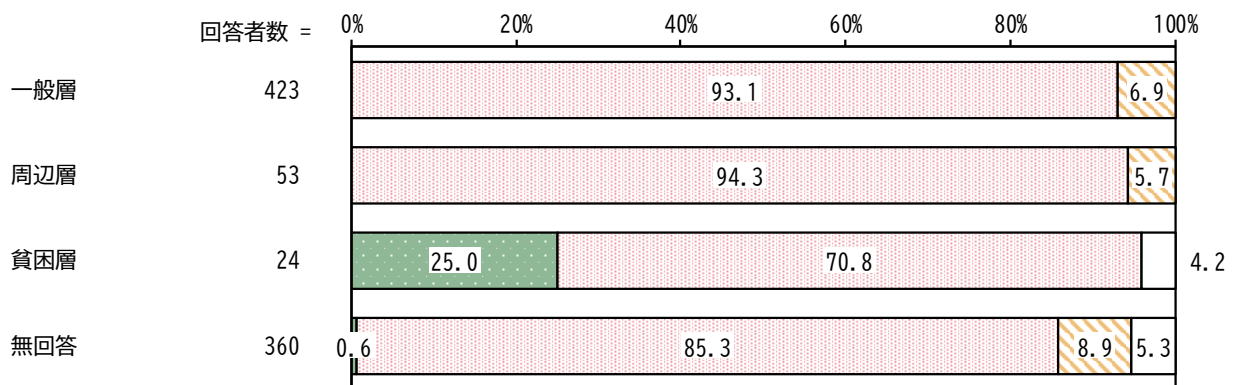
B 電気料金

困窮層ほど「あった」の割合が高くなっています。生活状況に関わらず、最低限の低活を送ることができるよう支援が必要です。

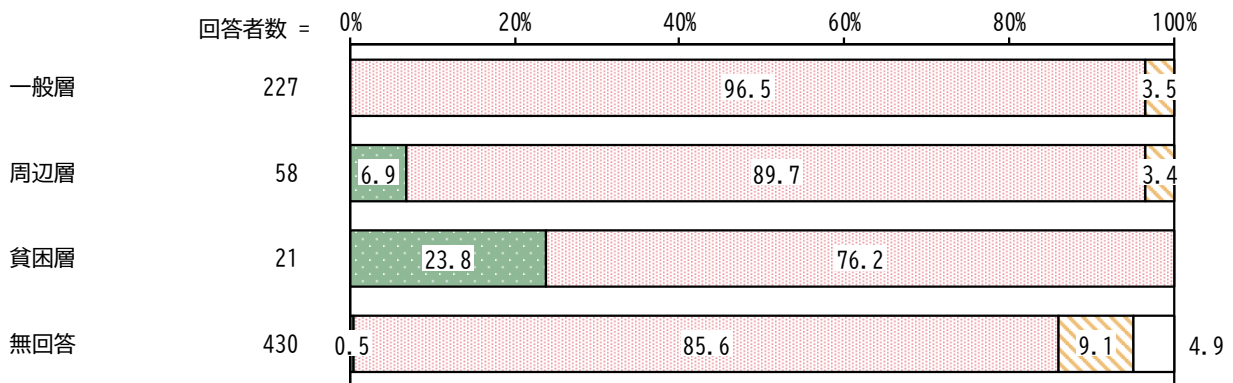
【生活困難度別】

■ あった □ なかった ▨ 該当しない（払う必要がない） □ 無回答

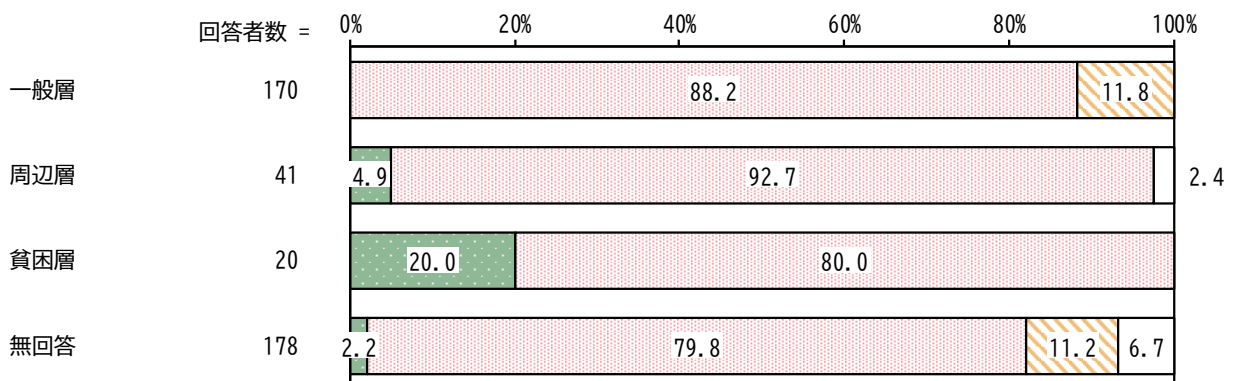
・小学生保護者



・中学生保護者



・16-17歳保護者



問 あなたのご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由で、以下のA～Gの料金について、支払えないことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

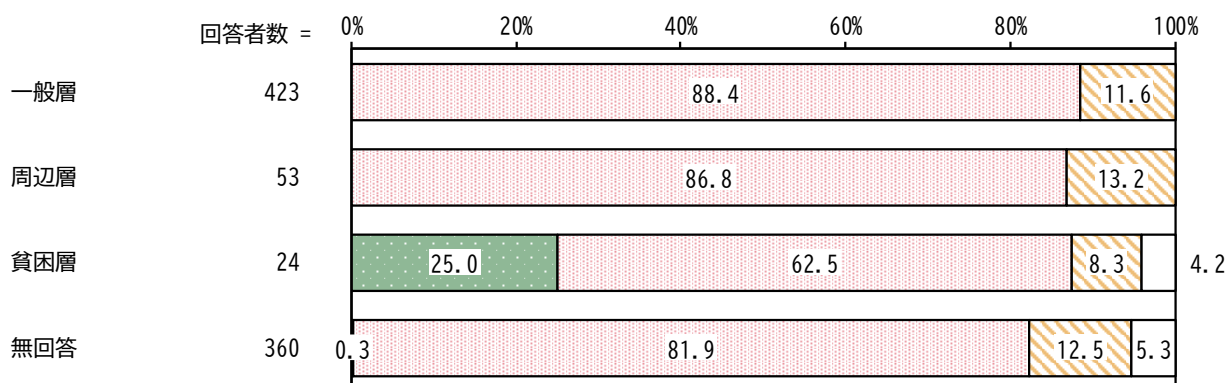
C ガス料金

困窮層ほど「あった」の割合が高くなっています。生活状況に関わらず、最低限の低活を送ることができるよう支援が必要です。

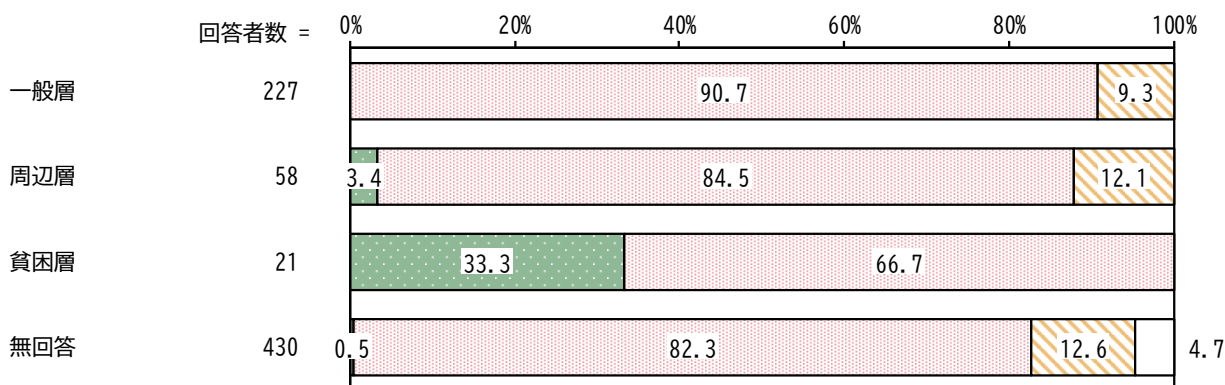
【生活困難度別】

■ あった □ なかった ▨ 該当しない(払う必要がない) □ 無回答

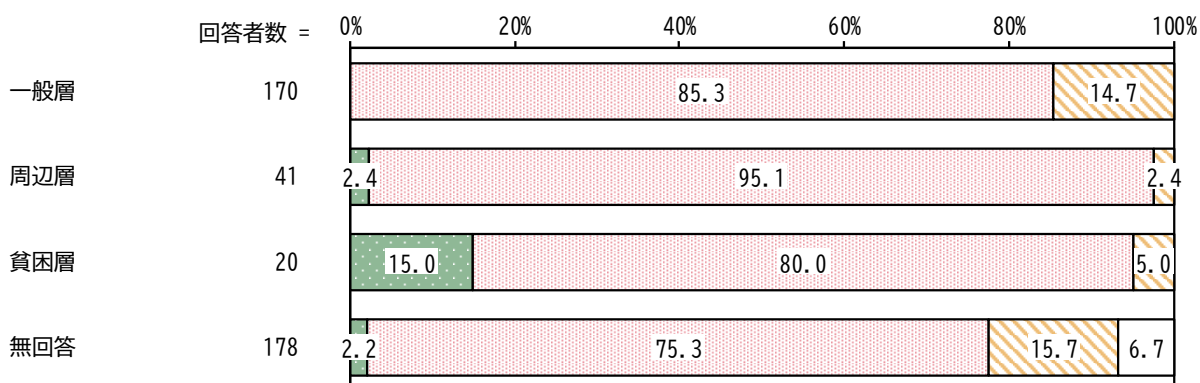
・小学生保護者



・中学生保護者



・16-17歳保護者



問 あなたのご家庭では、過去1年の間に、経済的な理由で、以下のA～Gの料金について、支払えないことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

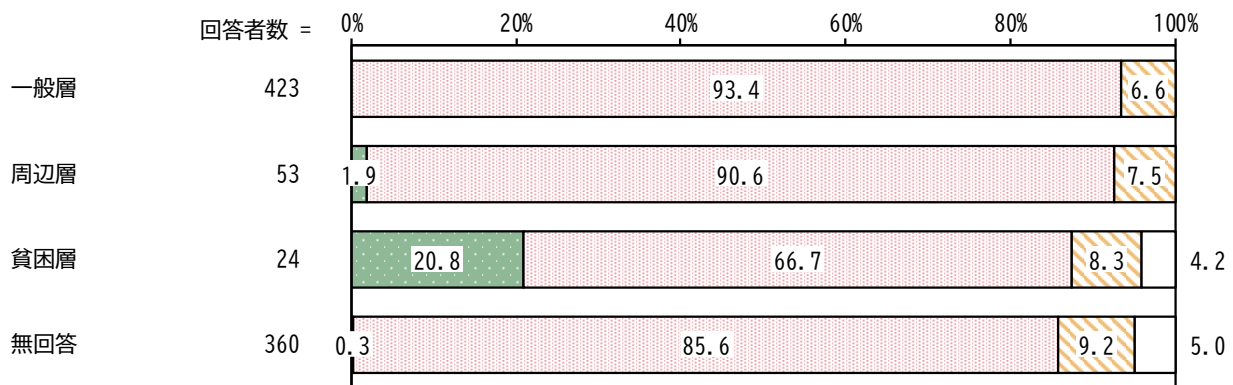
D 水道料金

困窮層ほど「あった」の割合が高くなっています。生活状況に関わらず、最低限の低活を送ることができるよう支援が必要です。

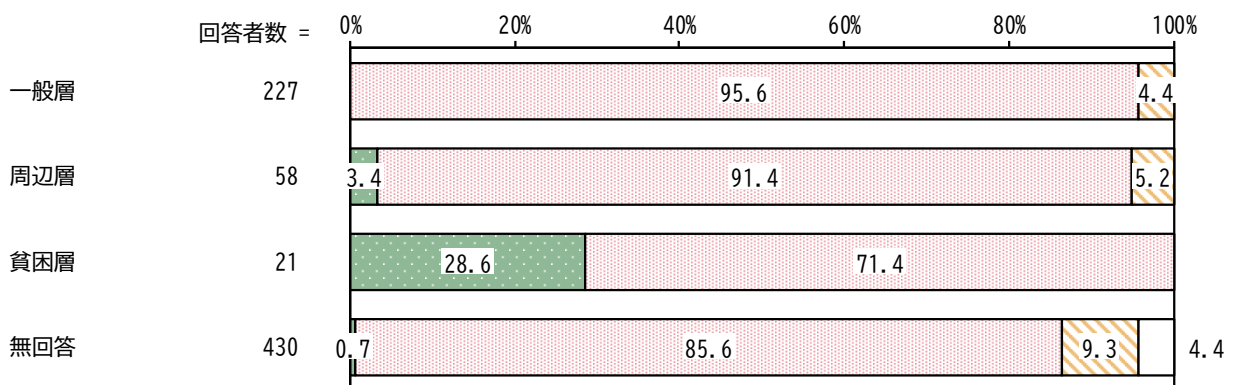
【生活困難度別】

■ あった □ なかった ▨ 該当しない（払う必要がない） □ 無回答

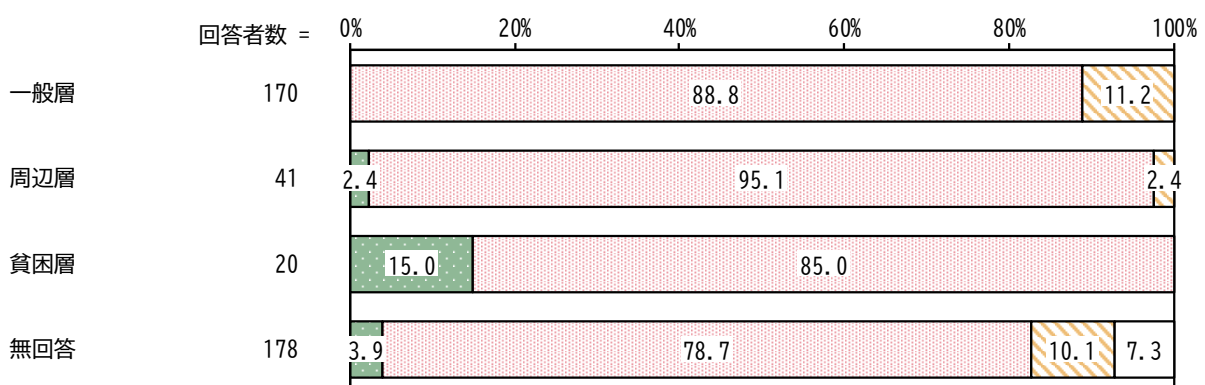
・小学生保護者



・中学生保護者



・16-17歳保護者



8 15歳の頃の生活状況

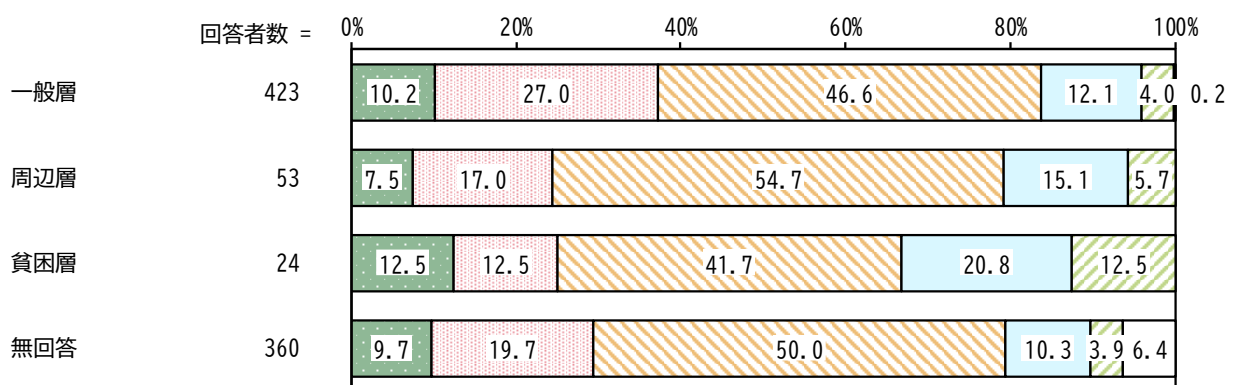
問 あなたが15歳の頃の、あなたのご家庭の暮らし向きについて、最も近いものに○をつけてください。(1つに○)

15歳の頃の生活状況については、大きな差はみられませんでした。今後も調査を継続し、貧困の連鎖の有無を注意深く検討することが重要です。

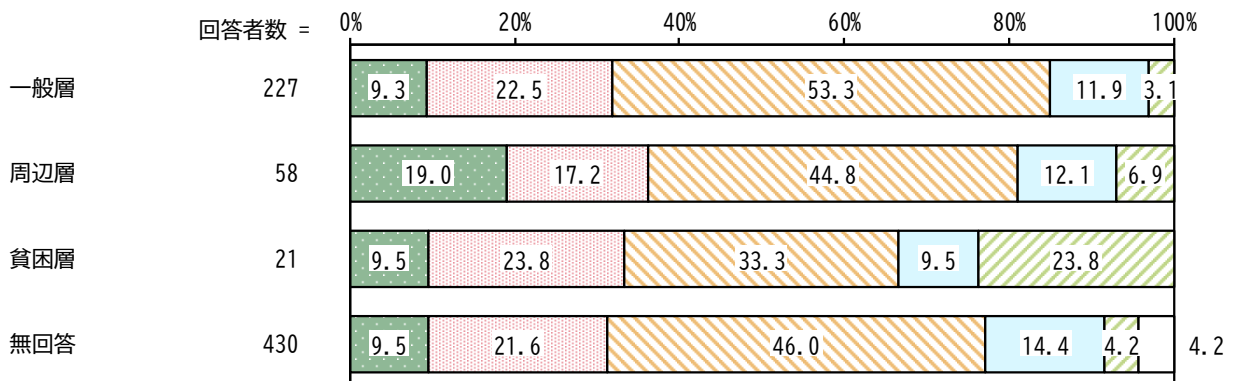
【生活困窮度別】

■ 大変ゆとりがあった □ ややゆとりがあった ■ 普通 □ やや苦しかった
 ■ 大変苦しかった □ 無回答

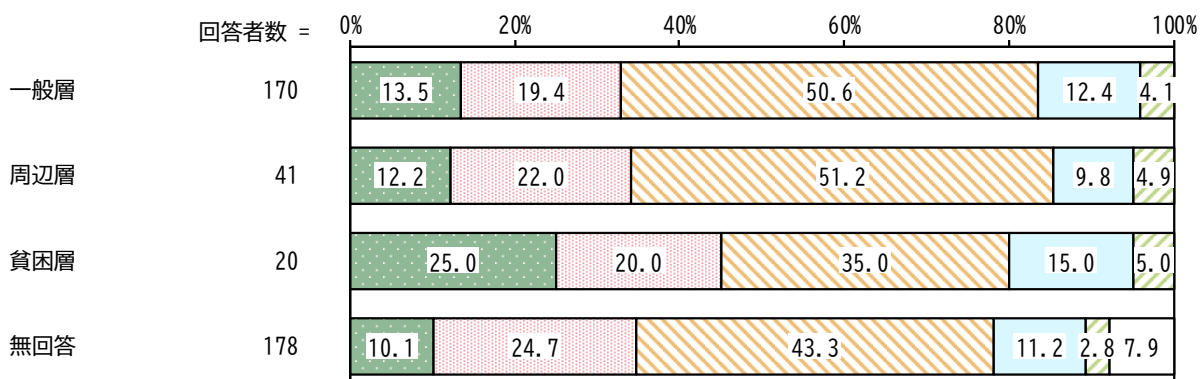
・小学生保護者



・中学生保護者



・16-17歳保護者



9 事業への関心

問 お子さんについて、以下のA～Rの支援制度やサービス、施設をこれまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

全ての世代の困窮層において、「J 学校以外が実施する学習支援（無料塾）」の利用の仕方がわからなかった割合が高くなっています。また、「K ヤングケアラーコーディネーター」「L 子どもオンブズパーソン」も複数の世代で4割を超える回答者が利用の仕方がわからなかったとしています。支援を必要とする家庭に事業がつながるよう、周知啓発や利用しやすい環境づくりが必要です。

【生活困難度別】困窮層のみ（一部抜粋）

	小学生保護者	中学生保護者	16-17 保護者
お子さんについて、以下のA～Rの支援制度やサービス、施設をこれまでに利用したことがありますか。	利用の仕方がわからなかった	利用の仕方がわからなかった	利用の仕方がわからなかった
A 子育てひろば	4.2	14.3	10.0
B 子育て短期支援事業（ショートステイ）	16.7	42.9	25.0
C ファミリー・サポート・センター	25.0	38.1	25.0
D 子ども食堂	16.7	33.3	35.0
E フードパントリーによる食糧支援	25.0	33.3	25.0
F 児童館	0.0	14.3	5.0
G みらいく中高生世代スペース	25.0	33.3	35.0
H 子どもなんでも相談	33.3	33.3	35.0
I 学校が実施する補講（学習支援）	20.8	38.1	25.0
J 学校以外が実施する学習支援（無料塾）	41.7	57.1	45.0
K ヤングケアラーコーディネーター	33.3	42.9	40.0
L 子どもオンブズパーソン	29.2	42.9	45.0
M みらいと高幡	29.2	42.9	35.0
N うちたす	37.5	42.9	35.0
O プレーパーク	33.3	42.9	35.0
P 体験教室	20.8	42.9	30.0
Q 地域のスポーツクラブ	16.7	42.9	25.0
R 地域の文化クラブ	16.7	42.9	25.0

Ⅲ 本人調査結果の概要

1 居場所

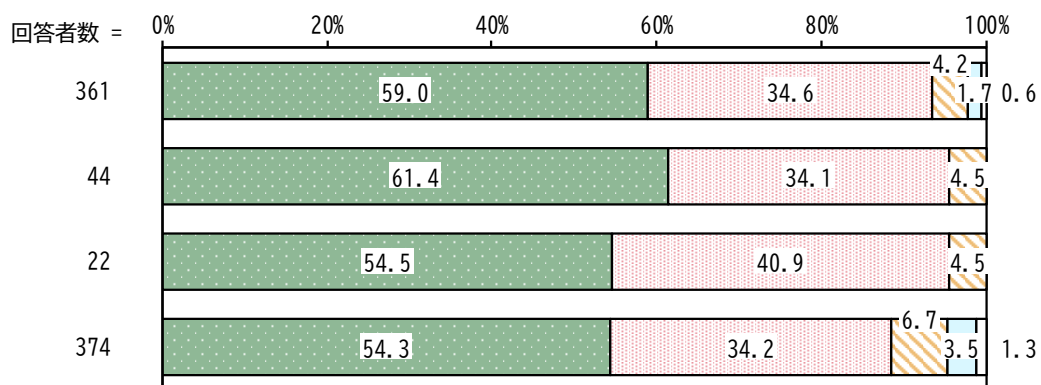
問 あなたは、学校にいる時間が楽しいですか。(1つに○)

中学生において、困窮層ほど、「楽しい」の割合が低くなっています。貧困が直接的に影響しているかについては、より詳細な調査が必要ですが、留意すべき結果です。

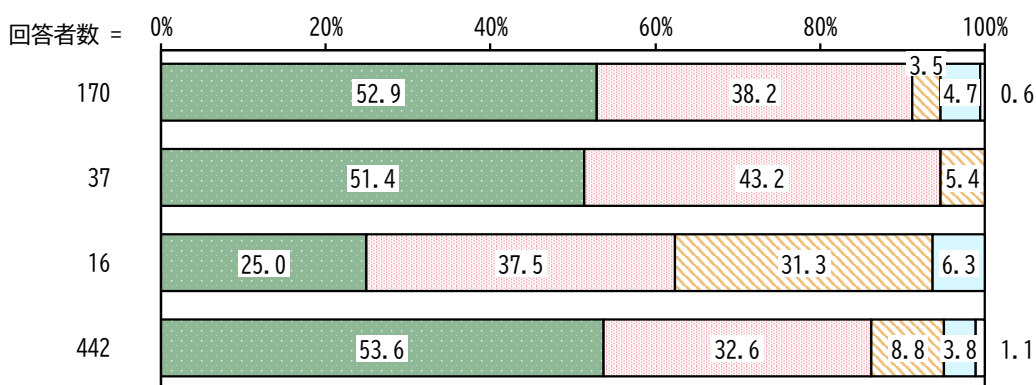
【生活困難度別】



・小学生本人



・中学生本人



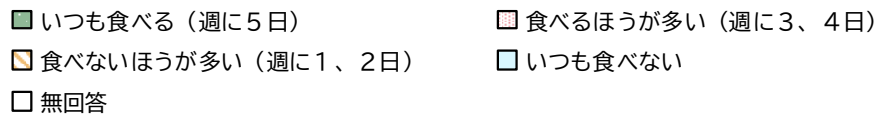
2 朝食の摂取状況

問 あなたは平日の食事を週にどのくらいしていますか。※給食を数えないで回答してください。(それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

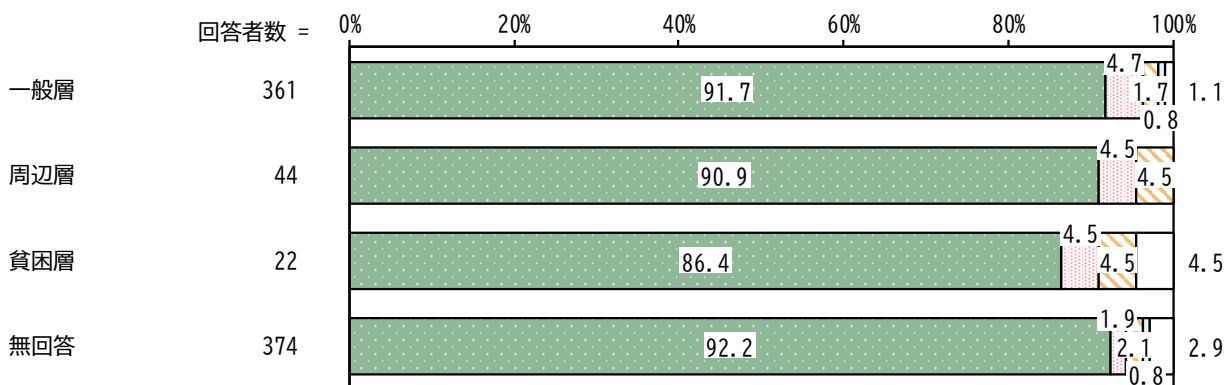
A 朝食

生活困難度別、世帯分類別のいずれにおいても、全体として大きな差はみられませんでした。貧困が食事の状況に影響する可能性については注意して検討していく必要があります。

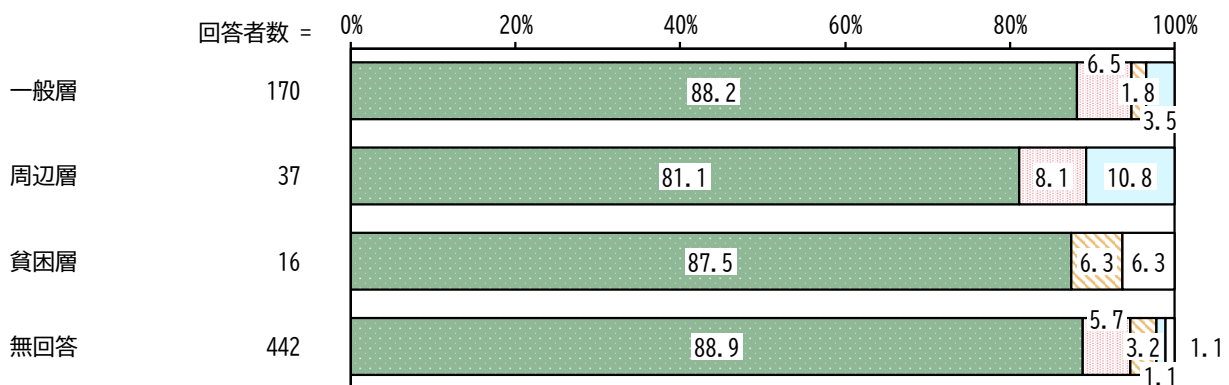
【生活困難度別】



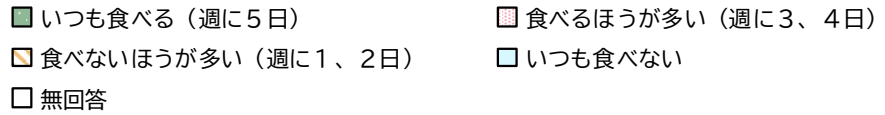
・小学生本人



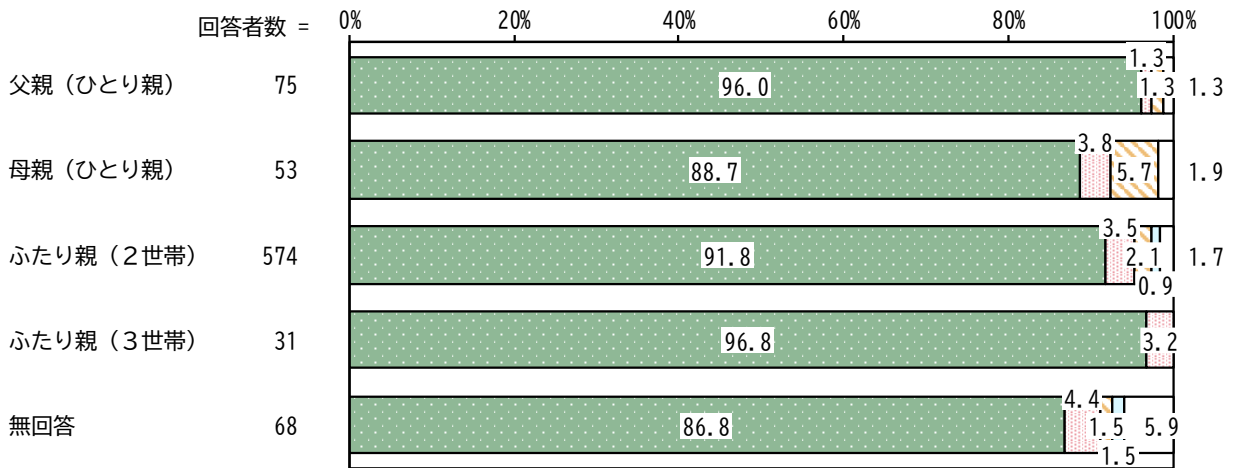
・中学生本人



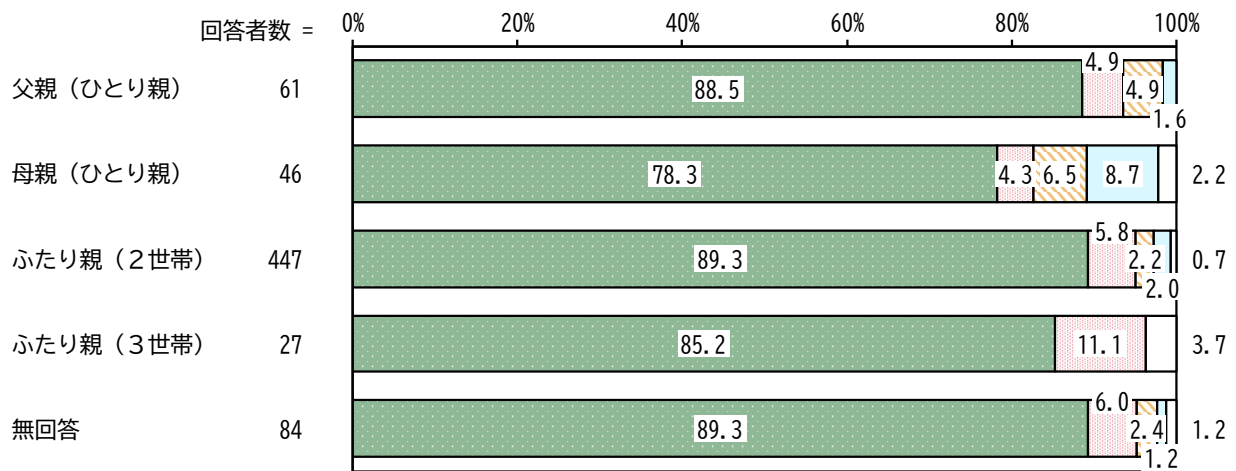
【世帯分類別】



・小学生本人



・中学生本人



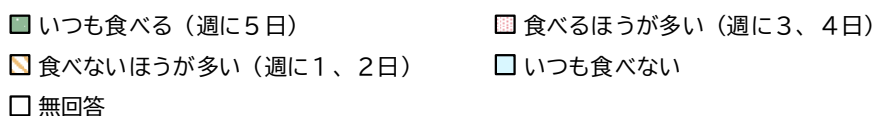
3 長期休暇中の昼食の摂取状況

問 あなたは平日の食事を週にどのくらいしていますか。※給食を数えないで回答してください。(それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

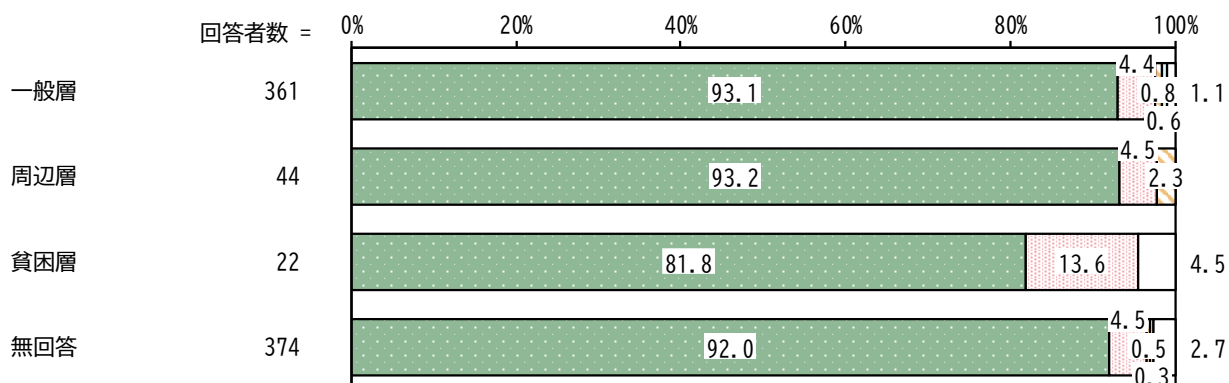
A 夏休みや冬休みなどの期間の昼食

生活困難度別では、全体として大きな差はみられませんでした。貧困が食事の状況に影響する可能性については注意して検討していく必要があります。また、世帯分類別にみると、中学生本人の母親（ひとり親）で「いつも食べる（週に5日）」の割合が低くなっています。家庭の状況を踏まえ、子どもたちが適切な頻度で食事をとることができるよう、啓発や支援が求められます。

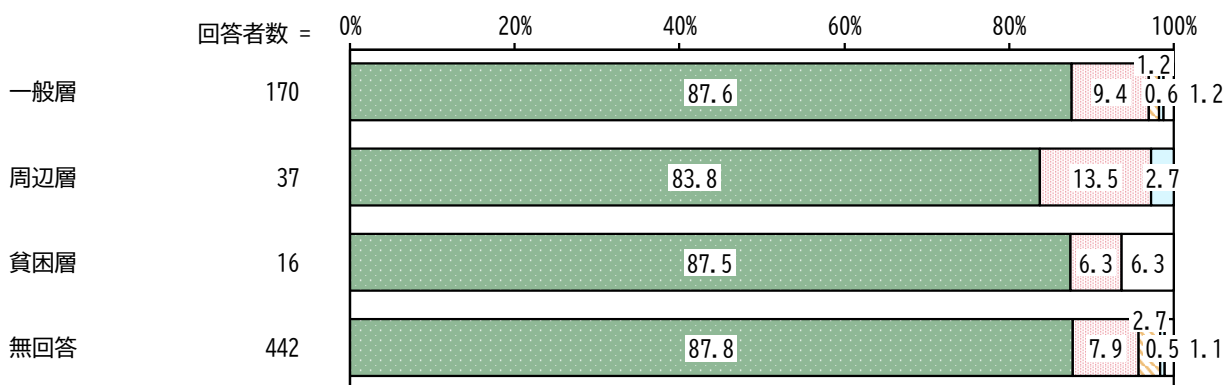
【生活困難度別】



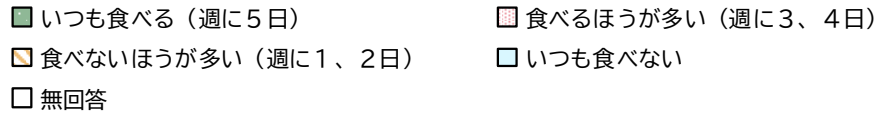
・小学生本人



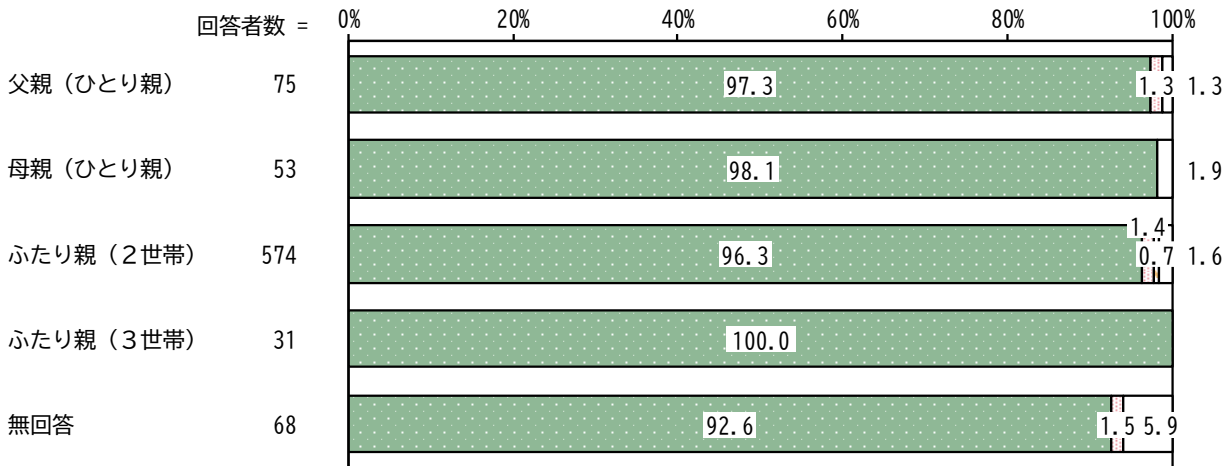
・中学生本人



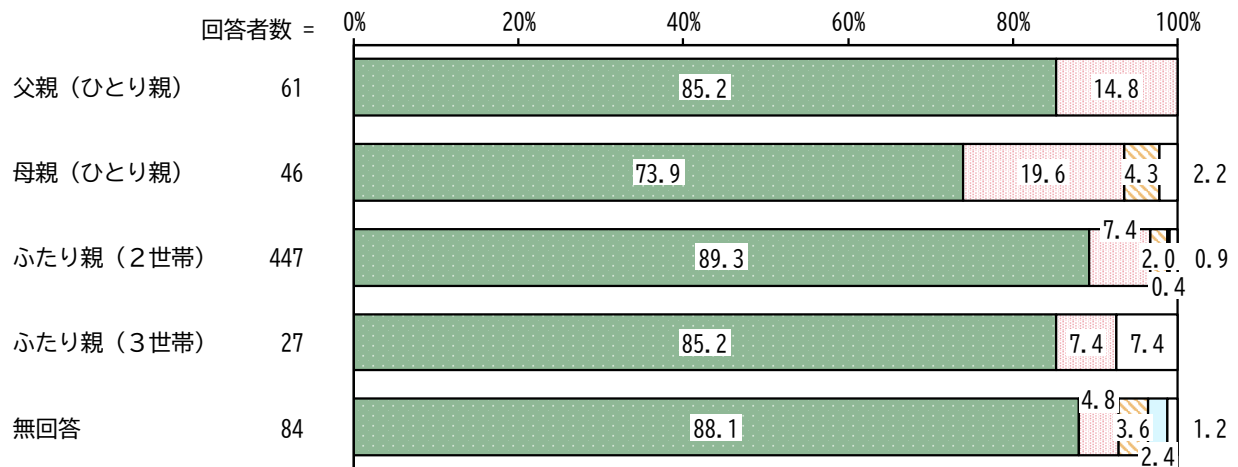
【世帯分類別】



・小学生本人



・中学生本人



4 歯磨きの状況

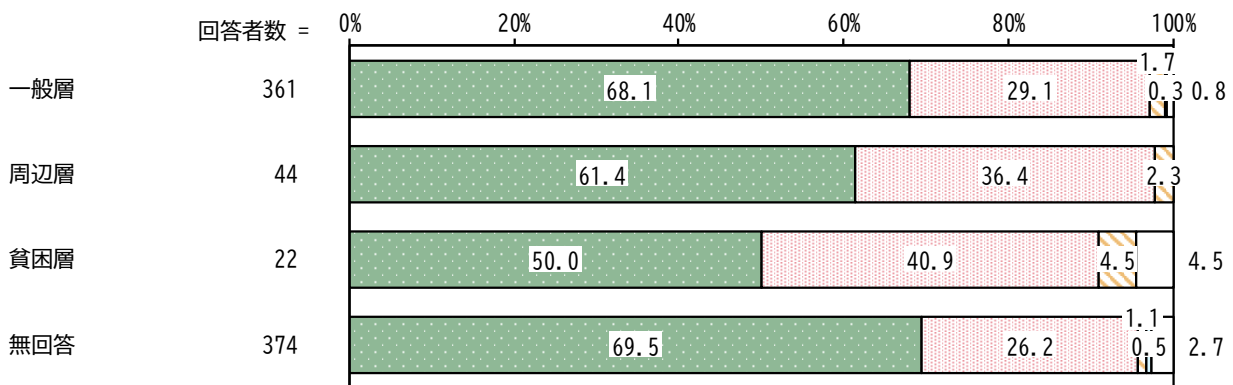
問 あなたは、歯みがきをどのくらいしますか。(1つに○)

小学生本人において、困窮層ほど、1日2回以上歯みがきをする割合が低くなっています。生活習慣と貧困の関係に注意しつつ、適切な習慣について、周知・啓発していく必要があります。世帯分類別では、大きな差はみられませんでした。

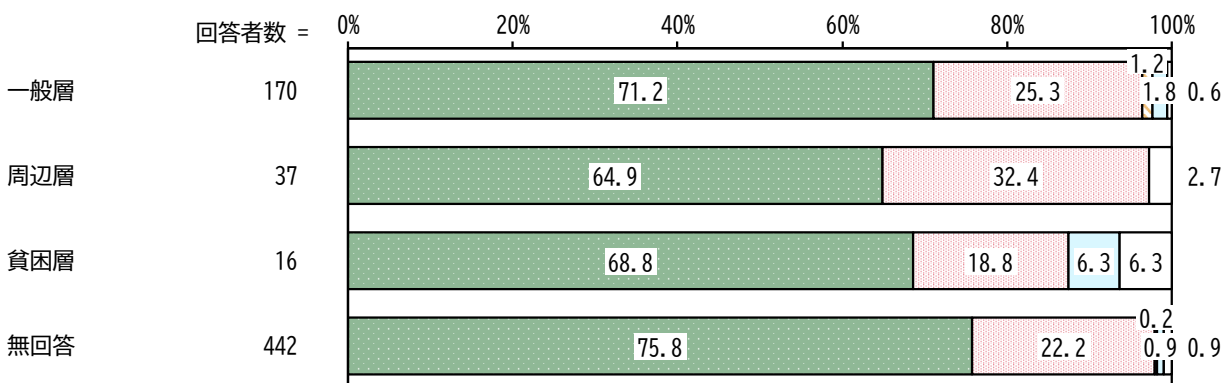
【生活困難度別】

- 1日2回以上歯みがきをする
- 1日1回歯みがきをする
- 全く歯みがきをしない日が週に1～4日ある
- 全く歯みがきをしない日が週に5日以上ある
- 無回答

・小学生本人



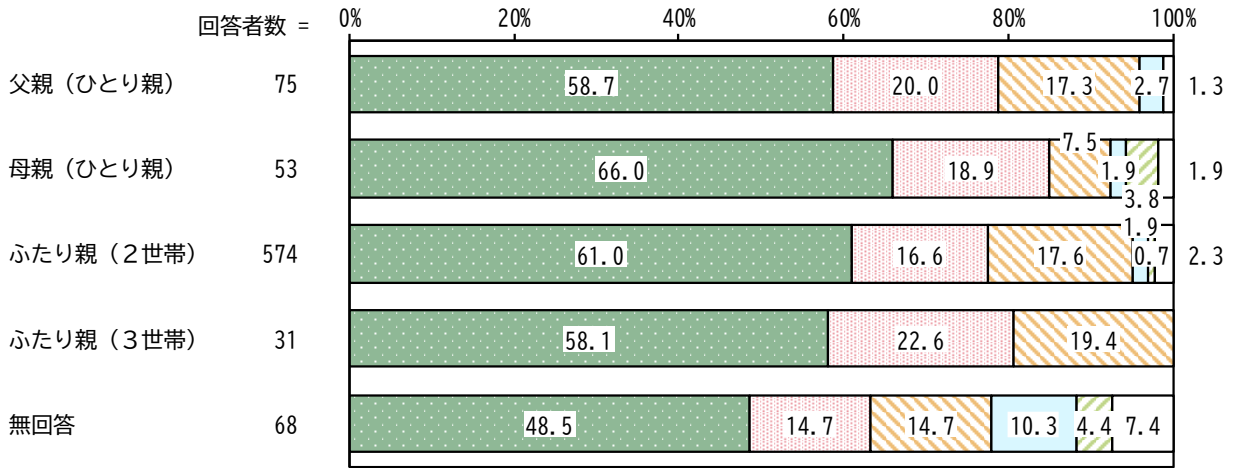
・中学生本人



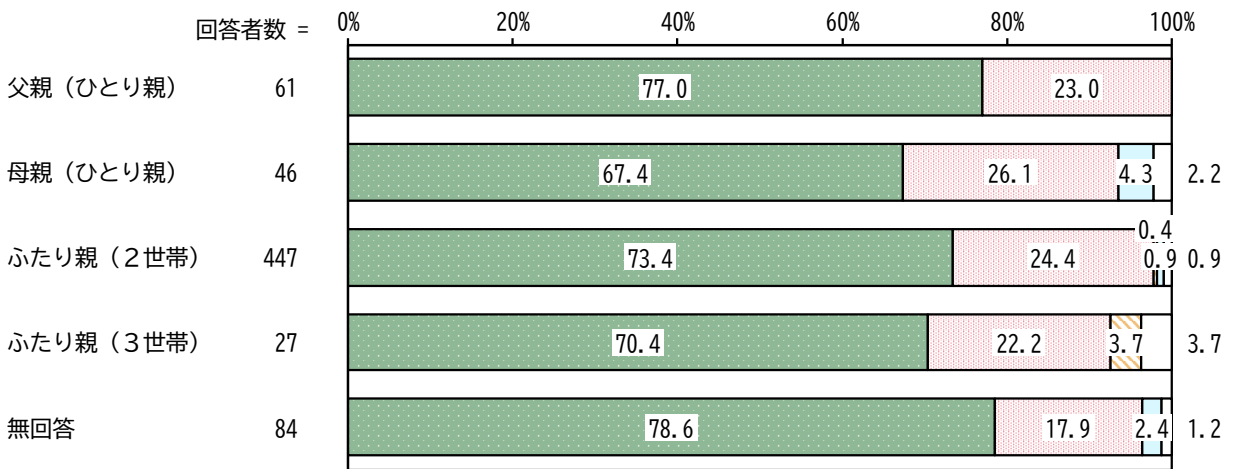
【世帯分類別】

■ よい ■ まあよい ■ ふつう ■ あまりよくない ■ よくない ■ 無回答

・小学生本人



・中学生本人



5 授業理解度

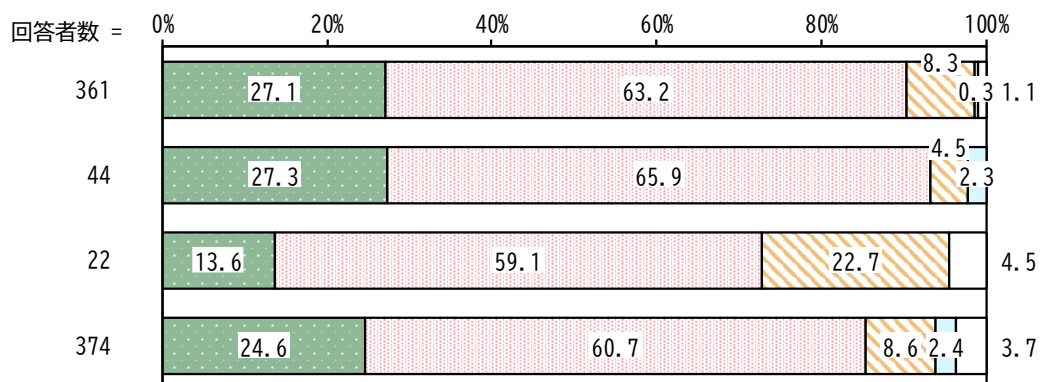
問 あなたは、学校の授業でわからないことがありますか。(1つに○)

小学生本人、中学生本人において、困窮層の方が「いつもわかる」の割合が低くなっています。生活状況が学業に影響しないよう、取り組む必要があります。世帯分類別では、小学生本人の父親(ひとり親)で「いつもわかる」の割合が高くなっています。一方、16-17歳で母親(ひとり親)の「いつもわかる」の割合が低くなっています。

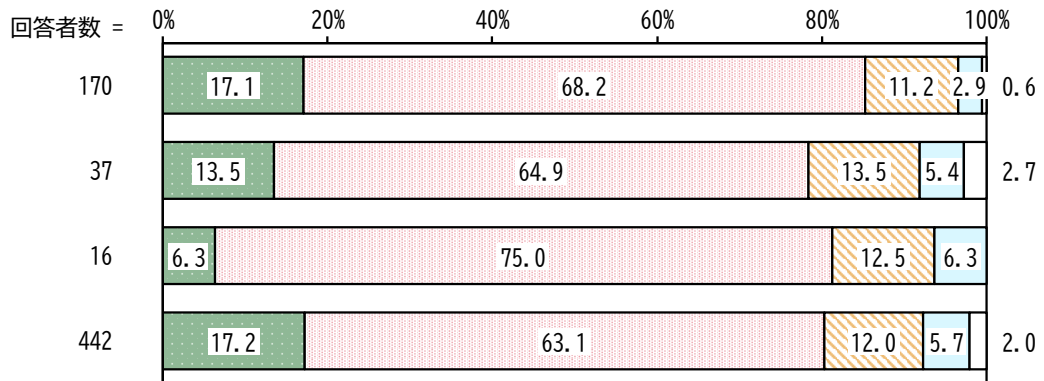
【生活困難度別】

■ いつもわかる □ だいたいわかる ■ あまりわからない □ ほとんどわからない □ 無回答

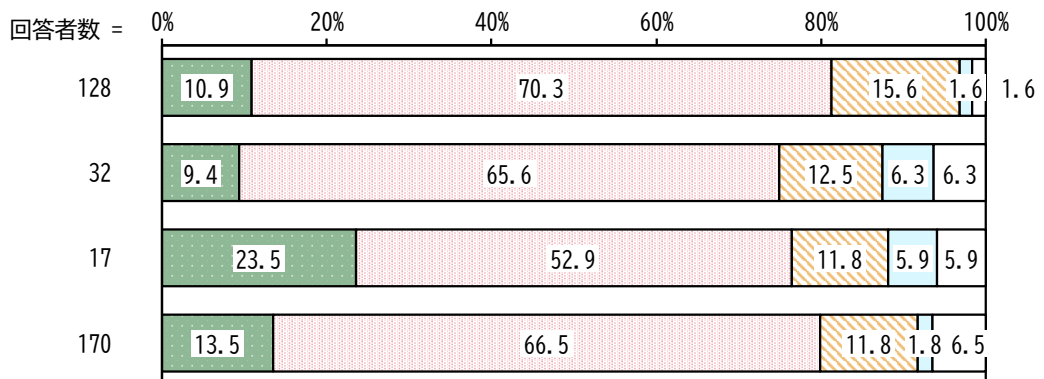
・小学生本人



・中学生本人



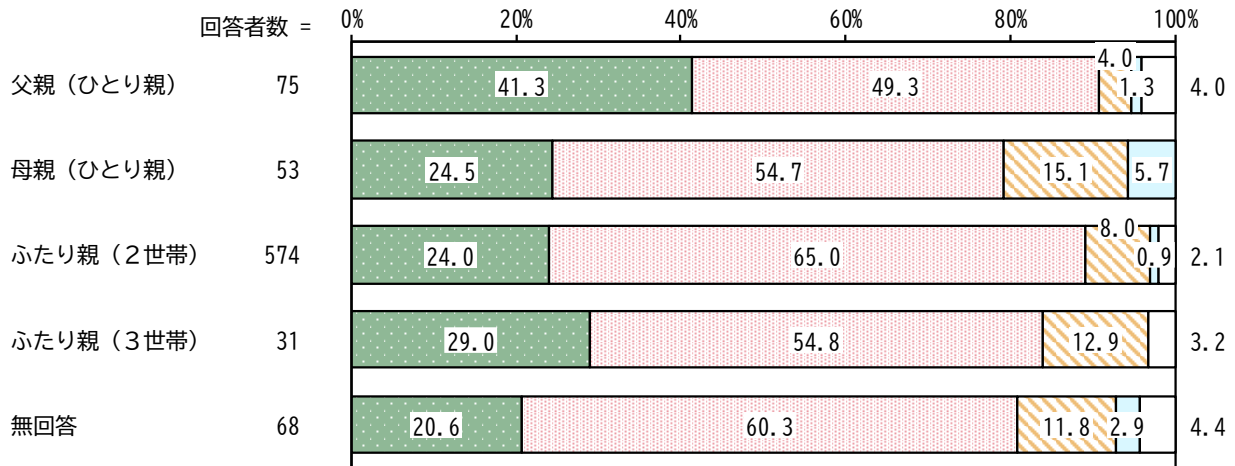
・16-17歳本人



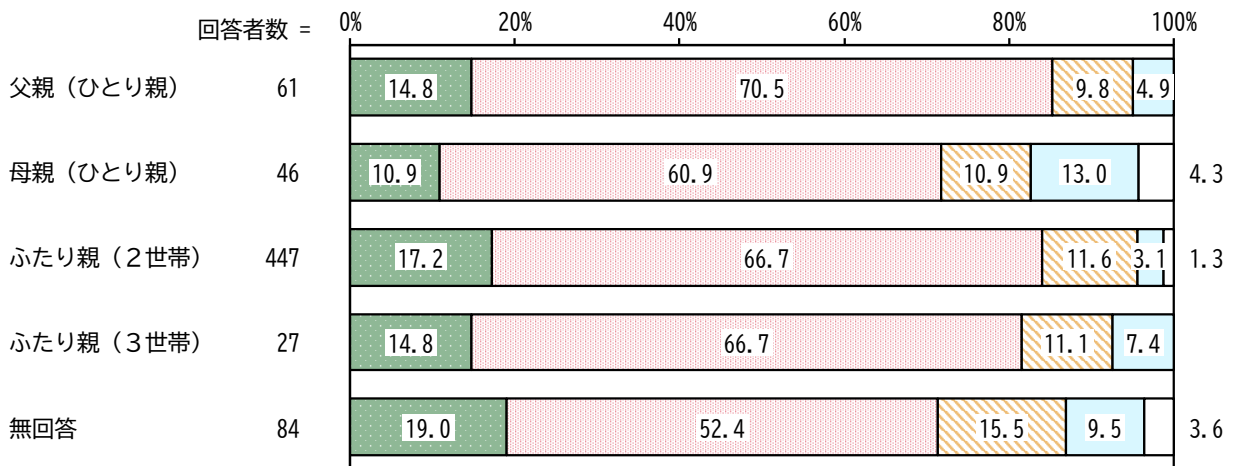
【世帯分類別】

■ いつもわかる ■ だいたいわかる ■ あまりわからない ■ ほとんどわからない □ 無回答

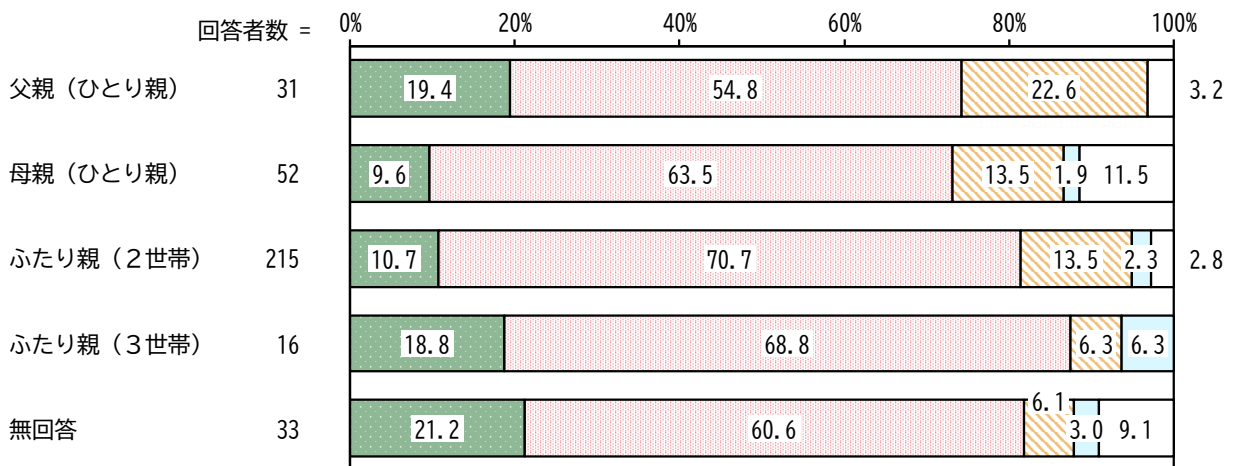
・小学生本人



・中学生本人



・16-17歳本人



6 塾の利用状況

問 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。
 ※勉強には学校の宿題もふくみます。月曜日から金曜日のことについてお答えください。
 (「自分で勉強する」～「その他」については、あてはまる番号すべてに○)

塾に通っている割合は、困窮層の方が低くなっています。生活状況に関わらず、適切な教育機会が得られるよう、支援していくことが重要です。

【生活困難度別】

・小学生本人

単位：％

区分	回答者数(件)	自分で勉強する	塾で勉強する	学校の補習を受ける	家庭教師に教えてもらう	地域の人が行う無料の勉強会に参加する	家の人に教えてもらう	友達と勉強する	その他	学校の授業以外で勉強はしない	無回答
全体	801	76.4	27.5	1.7	0.6	0.4	42.6	20.7	6.0	3.4	2.4
一般層	361	75.9	27.7	1.4	1.4	0.6	45.2	18.3	5.8	2.2	1.1
周辺層	44	88.6	20.5	2.3	0.0	0.0	29.5	15.9	9.1	4.5	0.0
困窮層	22	63.6	13.6	4.5	0.0	4.5	31.8	27.3	13.6	9.1	4.5
分類不能	374	76.2	28.9	1.9	0.0	0.0	42.2	23.3	5.3	4.0	3.7

・中学生本人

単位：％

区分	回答者数(件)	自分で勉強する	塾で勉強する	学校の補習を受ける	家庭教師に教えてもらう	地域の人が行う無料の勉強会に参加する	家の人に教えてもらう	友達と勉強する	その他	学校の授業以外で勉強はしない	無回答
全体	665	75.6	47.5	3.0	1.2	0.5	21.5	15.2	1.7	5.1	1.8
一般層	170	82.4	47.1	2.9	0.6	0.0	24.7	12.4	1.8	3.5	0.6
周辺層	37	78.4	40.5	0.0	0.0	0.0	24.3	21.6	2.7	5.4	0.0
困窮層	16	43.8	37.5	0.0	0.0	6.3	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0
分類不能	442	74.0	48.6	3.4	1.6	0.5	20.8	15.8	1.6	5.0	2.5

7 事業の利用状況・認知度

問 下記の事業で知っているものや、利用したことがあるもの、今後利用したいと思うものをお答えください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

多くの事業で認知度、利用状況に課題がみられる状況です。事業の周知を行い、必要な子どもに事業が届くよう努めていく必要がございます。

【生活困難度別】困窮層のみ（一部抜粋）

※「知らない」は「知っているが、今後利用したいとは思わない」「知らないし、今後利用してみたいとは思わない」の合算値

	小学生保護者		中学生保護者	
	利用したことがある	知らない (※)	利用したことがある	知らない (※)
お子さんについて、以下のA～Rの支援制度やサービス、施設をこれまでに利用したことがありますか。				
A 学校の補修教室	18.2	63.6	25.0	25.1
B 体験教室	36.4	59.1	12.5	50.1
C 地域のスポーツクラブ	22.7	68.2	12.5	43.8
D 地域の文化クラブ	4.5	86.3	6.3	50.1
E 学校の部活動（中学生、16-17歳のみ）	-	-	75.0	0.0
E 子どもなんでも相談	9.1	59.1	0.0	50.0
F ヤングケアラーコーディネーター	0.0	81.8	0.0	68.8
G 子どもオンブズパーソン	0.0	90.9	0.0	81.3
H みらいく	4.5	77.2	18.8	56.3
I みらいと高幡	4.5	86.4	0.0	75.1
J うちたす	4.5	81.8	12.5	81.3
K 無料塾	4.5	86.4	12.5	75.0
L 子ども食堂	9.1	59.1	12.5	56.3
M プレーパーク	0.0	86.3	0.0	93.8
N フードパントリー	13.6	72.7	6.3	81.3

8 自己肯定感

問 あなたは、自分のことについてどう思いますか。
それぞれ、あてはまる番号1つに○)

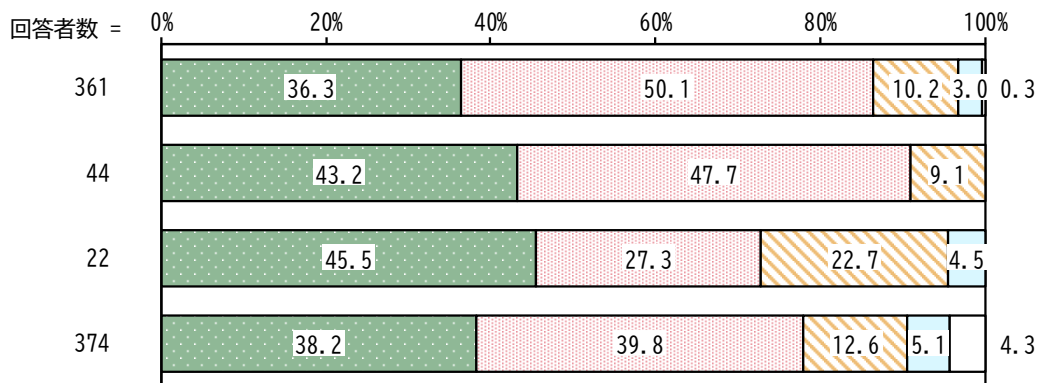
A 自分にはよいところがあると思う

困窮層において「とてもそう思う」「そう思う」をあわせた割合が低くなっています。世帯分類別では、中学生本人と16-17歳本人で「とてもそう思う」「そう思う」をあわせた割合が低くなっています。生活状況が自信への肯定感に負の影響をもたらさないよう、取組や支援を行って行くことが重要です。

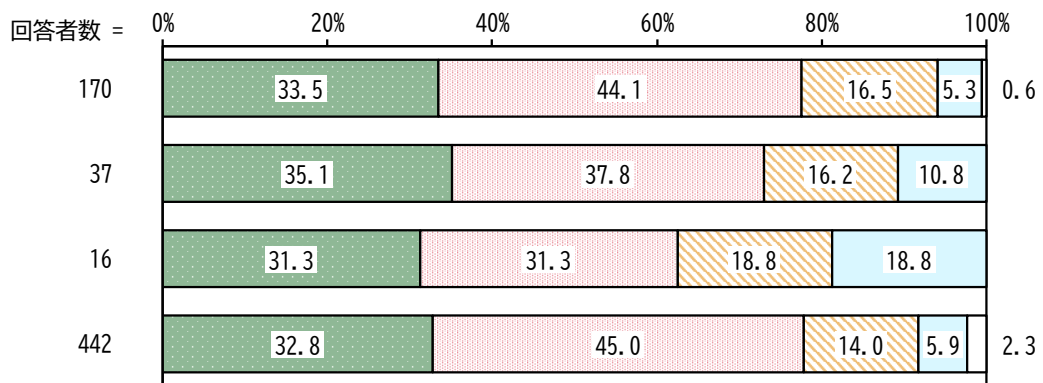
【生活困難度別】

■ とてもそう思う □ そう思う ■ あまりそう思わない □ そう思わない □ 無回答

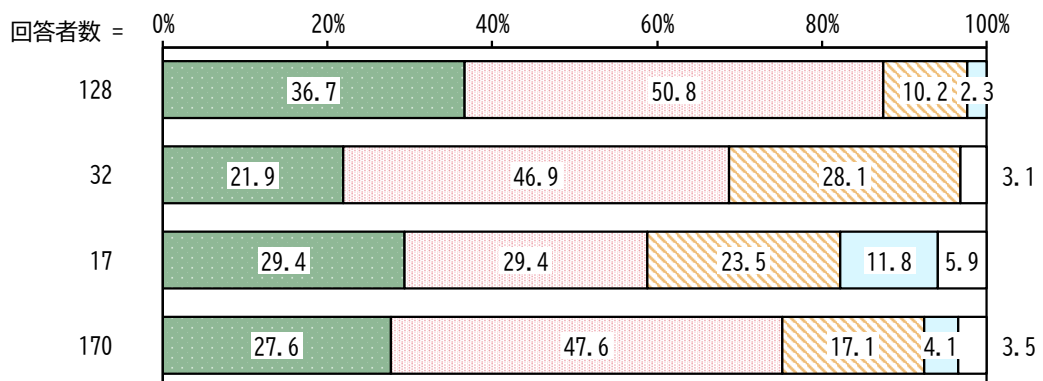
・小学生本人



・中学生本人



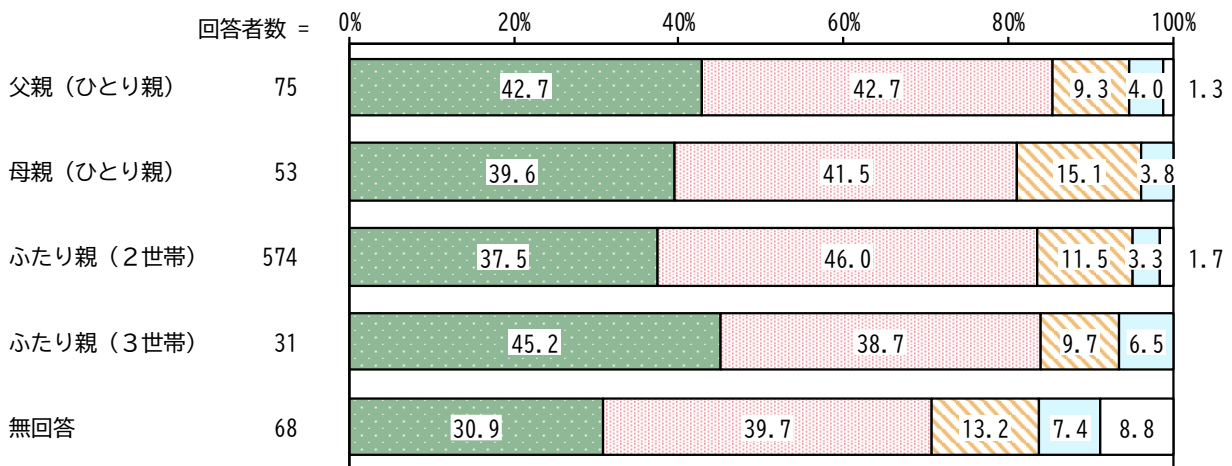
・16-17歳本人



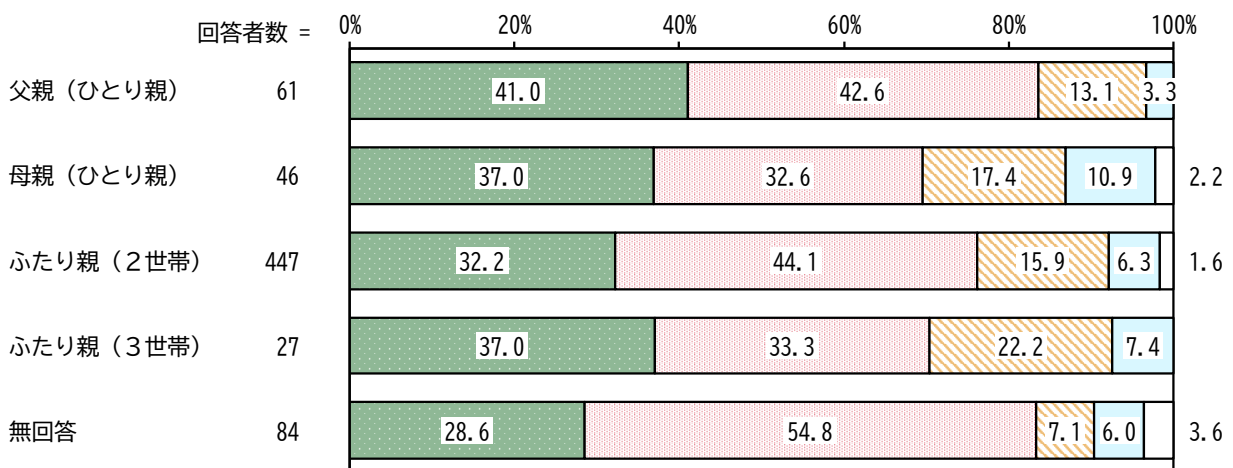
【世帯分類別】

■ とてもそう思う □ そう思う ■ あまりそう思わない □ そう思わない □ 無回答

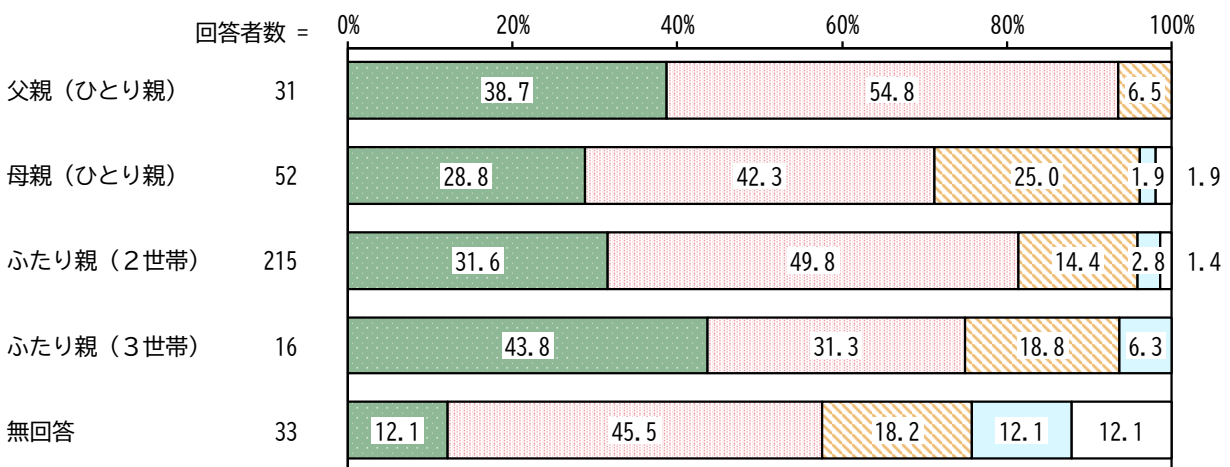
・小学生本人



・中学生本人



・16-17歳本人



9 将来の夢や目標

問 あなたは、自分のことについてどう思いますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

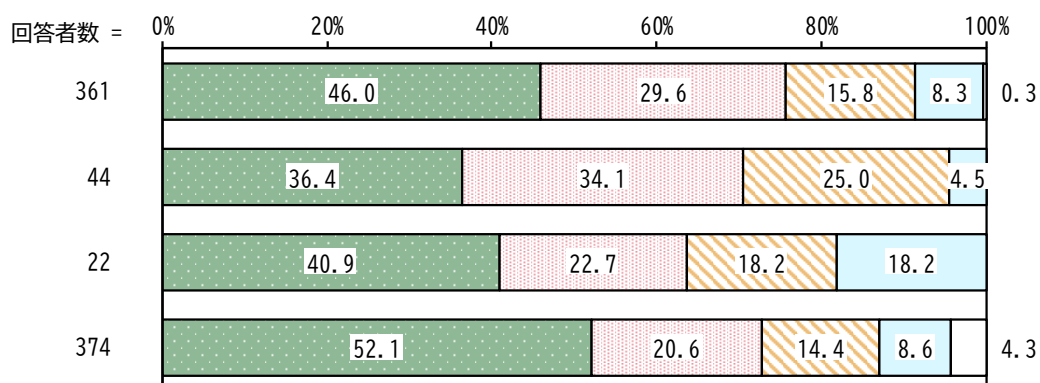
B 自分には将来の夢や目標がある

小学生本人では、困窮層ほど「とてもそう思う」「そう思う」の割合が低くなっています。逆に、中学生本人と16-17歳本人では困窮層ほど、上記の割合が高くなっています。世帯分類別では、大きな差はみられませんでした。

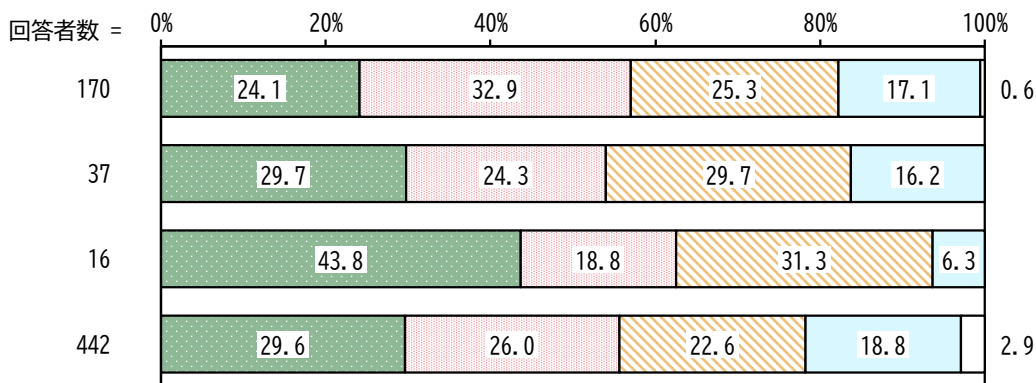
【生活困難度別】

■ とてもそう思う □ そう思う ▨ あまりそう思わない □ そう思わない □ 無回答

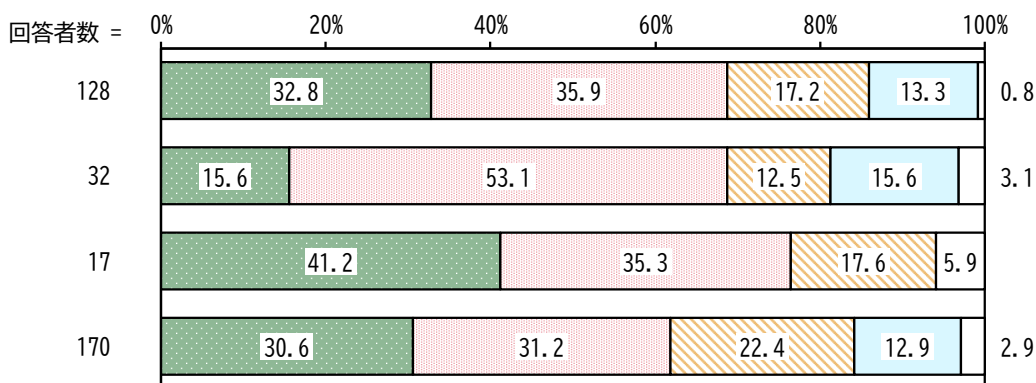
・小学生本人



・中学生本人



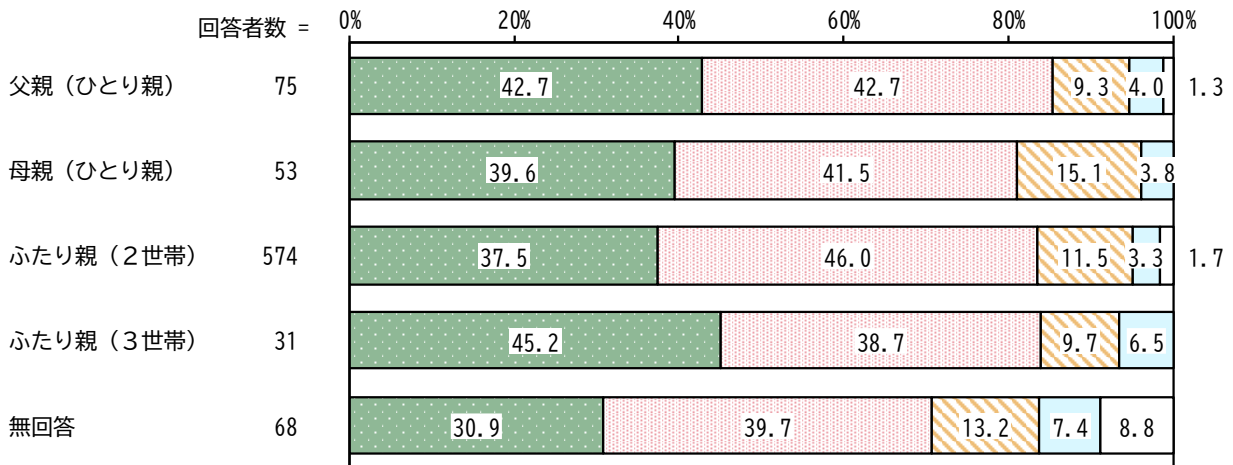
・16-17歳本人



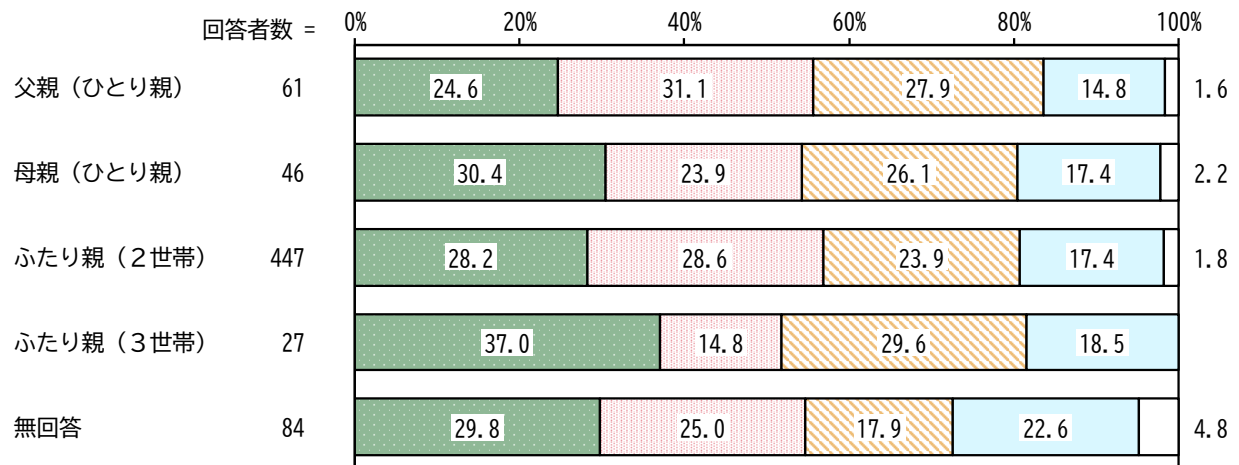
【世帯分類別】

■ とてもそう思う □ そう思う ■ あまりそう思わない □ そう思わない □ 無回答

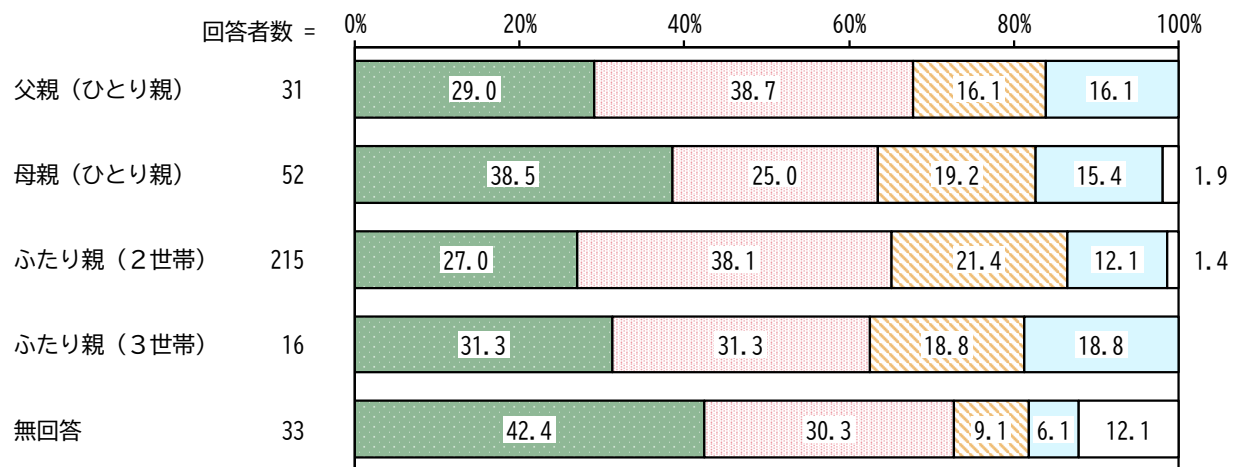
・小学生本人



・中学生本人



・16-17歳本人



10 非認知能力（困ったことや嫌なことがあった時に気持ちを落ち着かせる力）

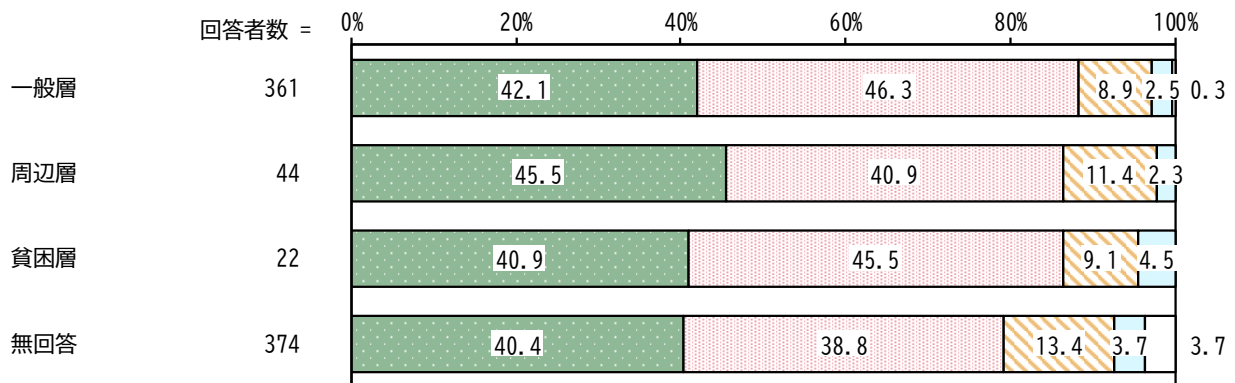
問 困ったことや嫌な事があったとき、自分の気持ちを落ち着かせることができますか。（1つに○）

中学生本人の困窮層で「あまりできない」の割合が高くなっています。生活状況との関係に注意しつつ、子どもたちの非認知的な力を養うよう努めていくことが重要です。

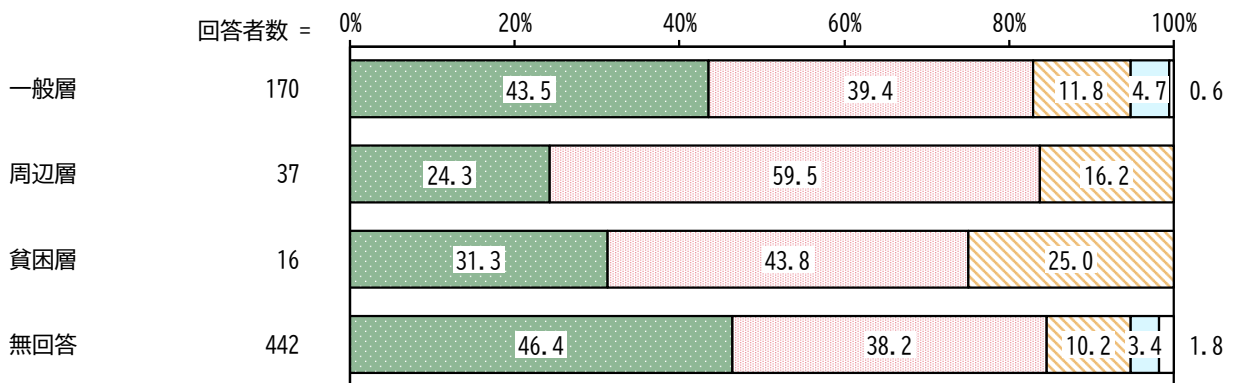
【生活困難度別】

■ いつもできる ■ ときどきできる ■ あまりできない □ できない □ 無回答

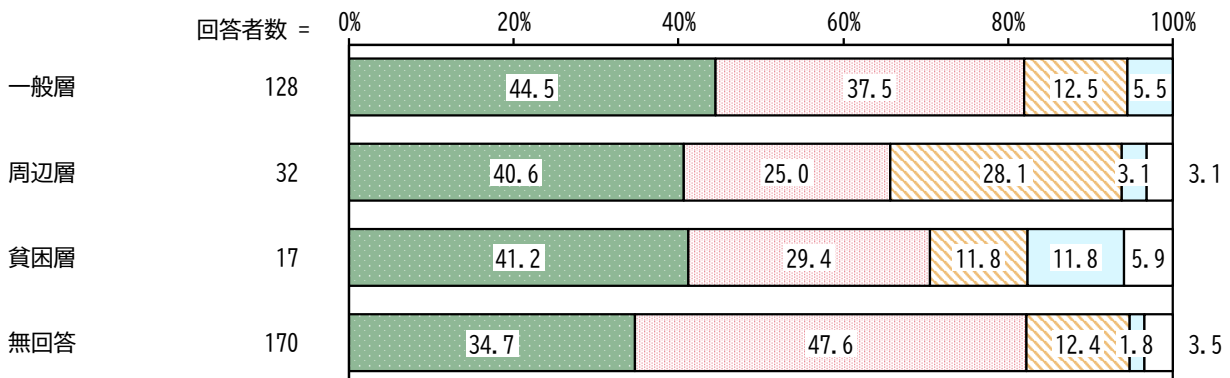
・小学生本人



・中学生本人



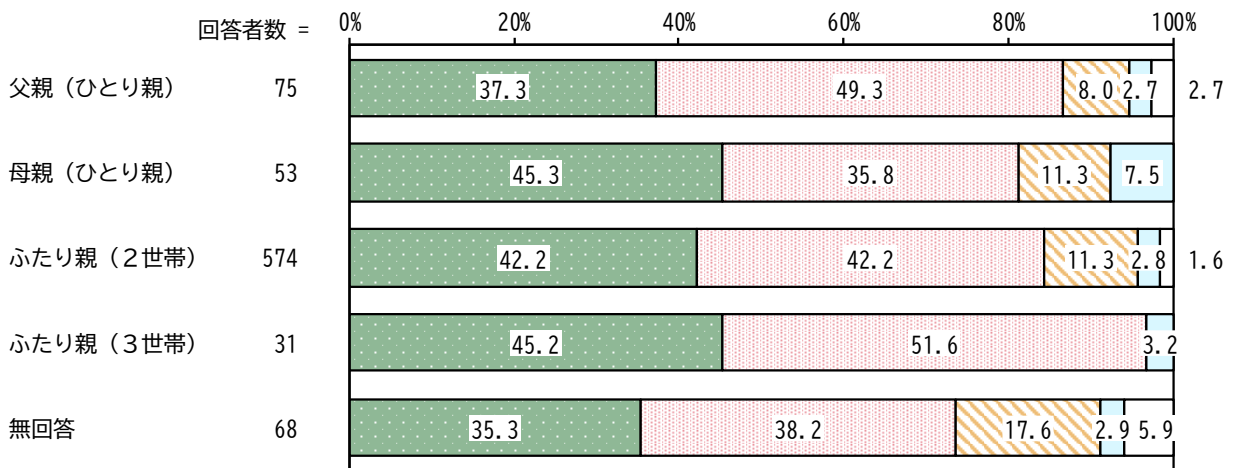
・16-17歳本人



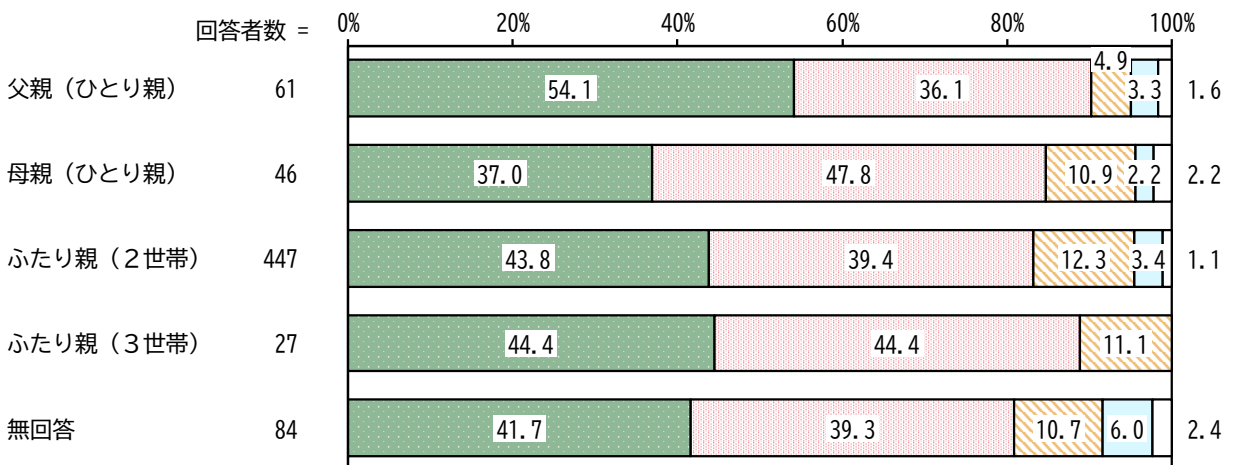
【世帯分類別】

■ いつもできる ■ ときどきできる ■ あまりできない ■ できない □ 無回答

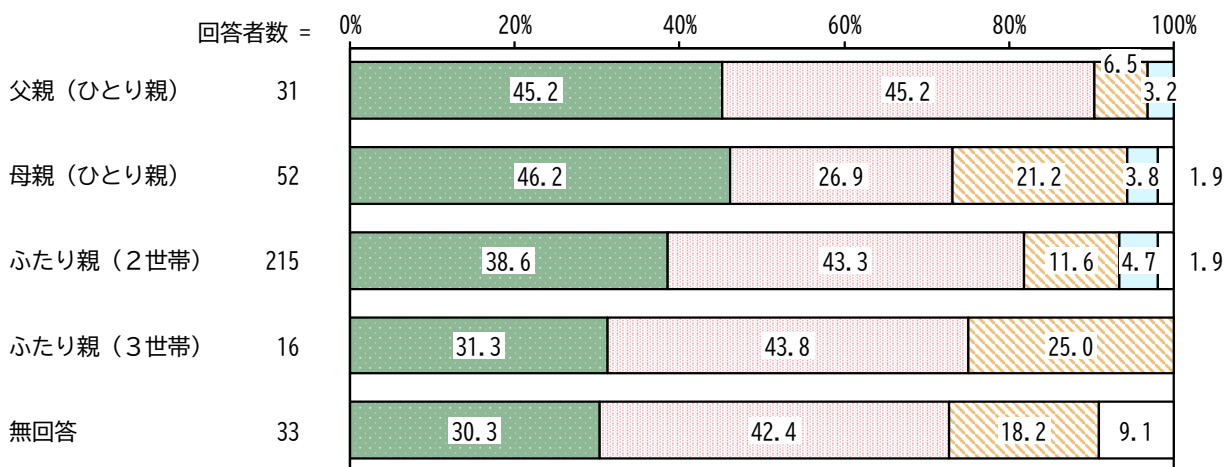
・小学生本人



・中学生本人



・16-17歳本人



11 学校に行きたいと思うか

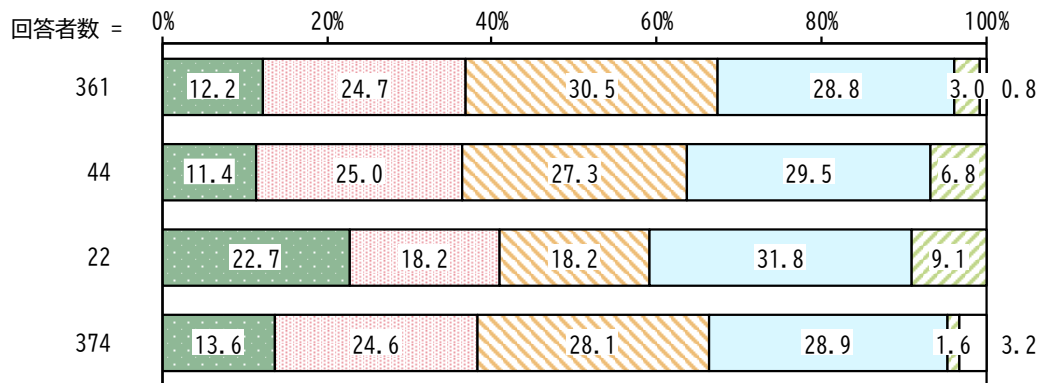
問 あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○) A 学校に行きたくないと思った

中学生本人の困窮層で「よくあった」「時々あった」をあわせた割合が高くなっています。生活状況の関わらず、子どもたちが学校に楽しく通うことができるよう支援していくことが重要です。

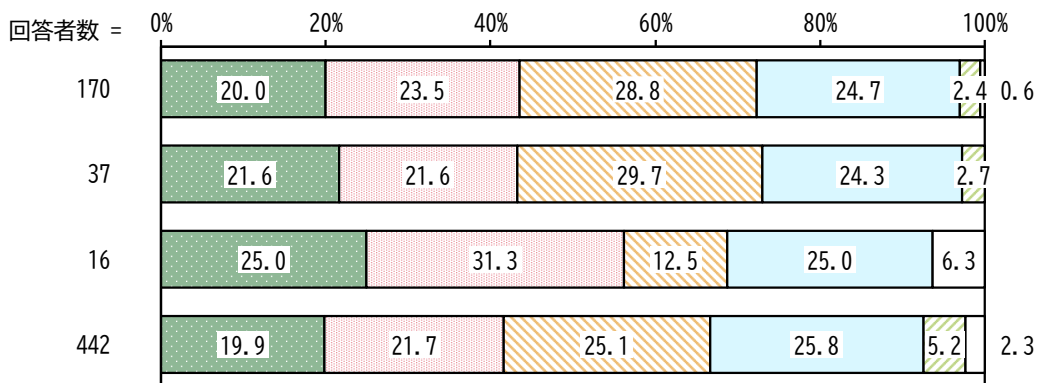
【生活困難度別】

■ よくあった ■ 時々あった ■ あまりなかった ■ なかった ■ わからない □ 無回答

・小学生本人



・中学生本人



12 幸福感

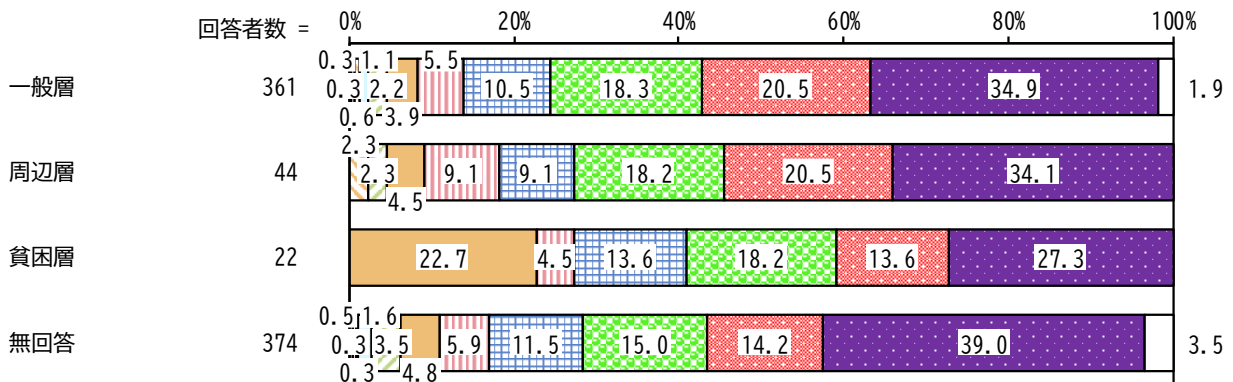
問 この1年を振り返って、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。0～10の数字から1つだけ選んでください。(1つに○)

困窮層ほど、「10」の割合が低くなっています。

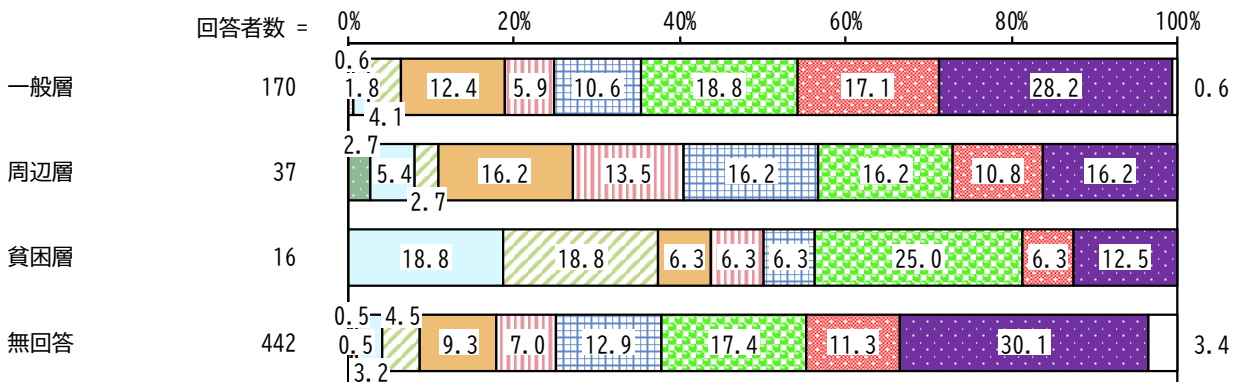
【生活困難度別】

■ 0 ■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8 ■ 9 ■ 10 □ 無回答

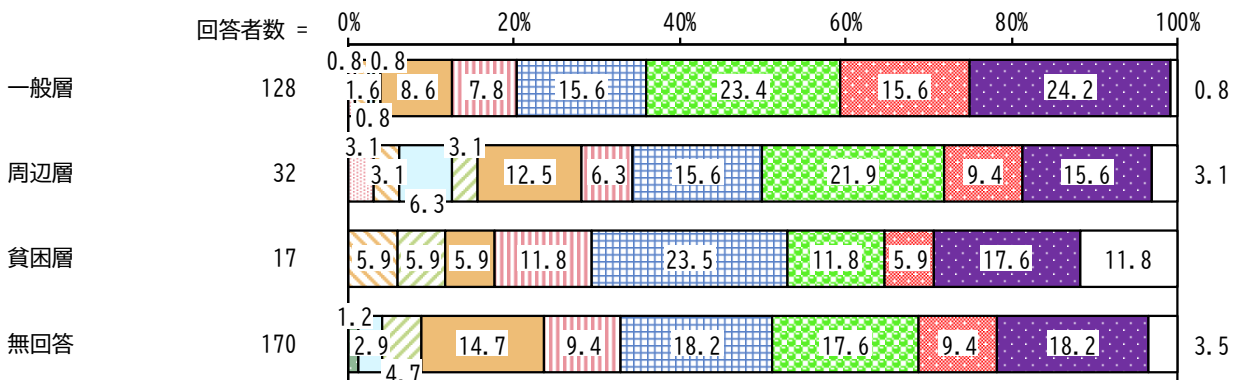
・小学生本人



・中学生本人



・16-17歳本人



13 命が守られていると思うか

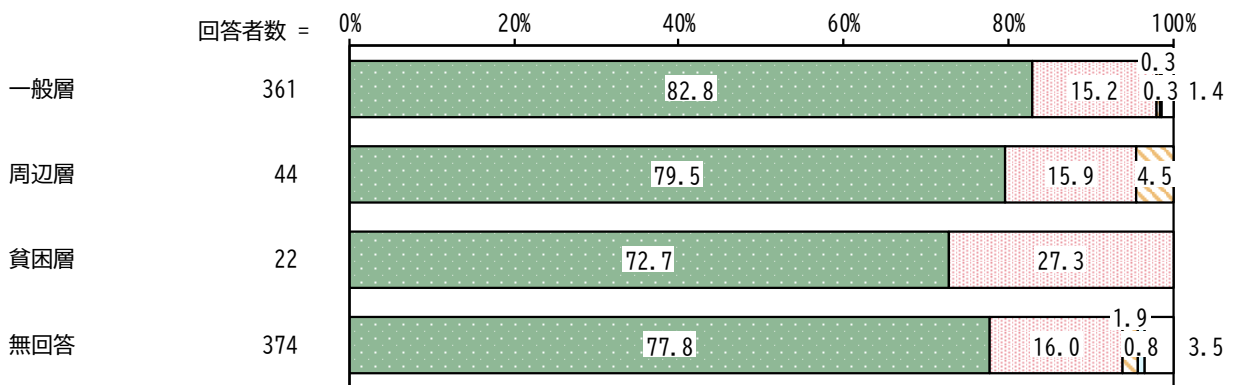
問 あなたは、自分の命が守られ安心して暮らしていると思いますか。(1つに○)

中学生本人の困窮層で「そう思う」の割合が低くなっています。生活状況を含めて、その原因を追究し、適切な支援を行うことが重要です。

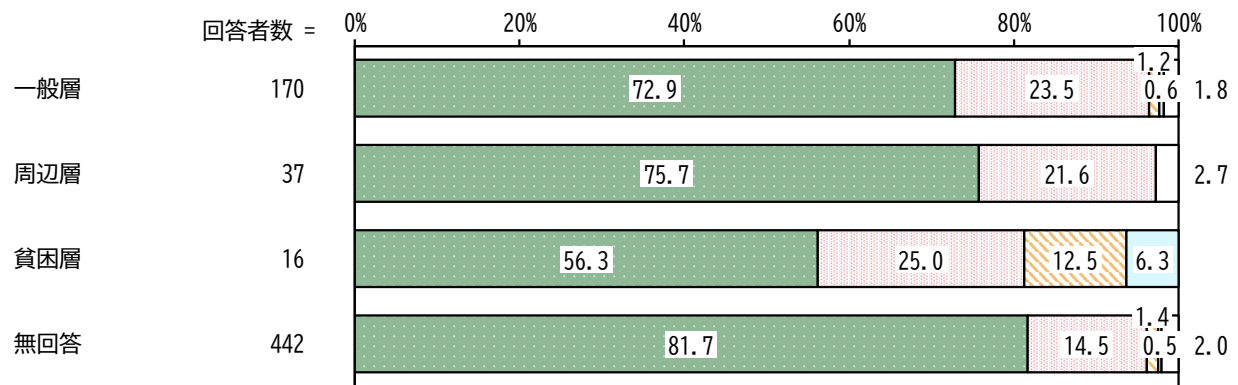
【生活困難度別】

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- 無回答

・小学生本人



・中学生本人



・16-17歳本人

